

学内広報

for communication across the UT



特集： ■ 役員就任・退任の挨拶

■ 東京大学の教育～「大学教育の達成度調査」から
みえてくるもの

2012.2.23

No. 1422

平成24年1月5日付で久保理事が退任され、平成24年1月7日付で磯田理事が就任されました。就任・退任の挨拶を以下に掲載します。



理事
磯田 文雄

(担当) 人事労務、法務、事務組織

業務改革、業務システム、情報公開、男女共同参画

(任期) 平成24年1月7日～平成24年3月31日

- 昭和52年3月 東京大学法学部卒業
- 昭和52年4月 文部省入省
- 昭和57年6月 スタンフォード大学大学院修士課程修了
(政治学修士・教育学修士)
- 平成16年4月 筑波大学理事・副学長
- 平成18年4月 文部科学省大臣官房審議官
(高等教育局担当)
- 平成18年10月 文部科学省高等教育局私学部長
- 平成20年7月 同 研究振興局長
- 平成22年7月 同 高等教育局長
- 平成24年1月 同 東京大学理事

専門分野：教育行政、カリキュラム研究

著書：『新しい教育行政』（ぎょうせい、2006年）

役員就任の挨拶

理事就任にあたり

このたび、1月7日付で理事に就任しました磯田文雄です。

平成9年、文部省研究助成課長として大学行政に深くかかわるようになって以来、大学の多くの教職員の方々からご指導ご支援を賜ってまいりました。特に東京大学の先生方には、学術研究の在り方や大学の使命について、機会あるごとに本質的な考えをご教授いただきました。私としては、そのご指導に基づき職務に専念してきましたつもりですが、大学を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

そして、今、私は東京大学のキャンパスに立っています。紀州の片田舎から上京した貧乏学生に分け隔てなく学問を教えて下さった東大に戻っています。この邂逅に深い感慨を覚えます。これまで親切にご指導くださった先生方の温かい心根を感じると、とても幸せな気持ちになります。

濱田総長もご指導くださった先生方のお一人であります。濱田総長のご方針の下、誠心誠意東京大学の発展のため尽力する所存であります。一人ひとりの教職員の皆様のご意見を伺い、しっかり考え、最善を尽くしてまいります。

現在、日本は20世紀型の経済社会から21世紀型の経済社会へ転換しようとしていると言われていています。21世紀にふさわしい社会を創造するためには、人類の知的資産の創造と高度な創造的人材の育成に大きな責任を持つ大学、なかでも東京大学の役割が大きいと考えます。

私自身は、その東京大学の一部の仕事に担うにすぎません。担当は、人事労務、法務、事務組織等であります。しかしながら、「学生であれ、教員、職員であれ、組織を構成している個々の人間が果たす役割が決定的に重要なのが、大学の本質的な特徴です」（東京大学の行動シナリオ）。この言葉を大切に、東京大学のメンバーの一人となれたことに喜びと責任を感じつつ、私が行うべき仕事に全力を挙げて取り組んでまいります。

どうか諸先生方、また、同僚の職員の皆様方、これまでもましてご指導、ご鞭撻賜りますよう衷心よりお願い致します。

東京大学の皆様へ

文部科学省スポーツ・青少年局長（前本学理事） 久保 公人

1月5日、東京大学理事を退任いたしました。在任約2年半の間、皆様方にはたいへんお世話になりました。心から感謝しお礼申し上げます。

濱田総長の下で、行動シナリオの作成に始まり、東京大学の様々な改革の渦中であってその改革を目の当たりにするという人生におそらく二度とない貴重な経験をする事ができました。自分自身、何が出来るか常に自問自答しながら過ごした毎日でしたが、人事労務、事務組織、法務、監査等を担当する中で東京大学の運営に少しでも寄与できたと思えば幸いです。

2年半の仕事をつりかえって見れば、東京大学はいろいろな課題を抱えつつも、その課題を解決していこうとする教員、職員の皆様のモチベーションが高く、高い知的環境の下で積極的な取り組みが許されるという恵まれた職場環境の中で様々な取り組みを進める事ができました。総長の暖かく包容力あるリーダーシップの下、役員の皆様のま

とまりも良く、楽しく仕事できました。また、上は副理事や事務部長から新規採用の職員にいたるまで、多くの職員のみなさまに接することができ、その高い士気や夢、悩み等を伺うこともできました。東京大学のみならず日本の国立大学の未来は東京大学の職員にかかっているという思いをも強く持った次第です。

就任時に濱田総長から「東京大学で学問の楽しさも味わって下さい」とおっしゃっていただいたことは、私自身の無精もあってあまり実現できず残念でもあり申し訳なく思っておりますが、多くの教職員のみなさまに夜の部も含め公私ともにお世話になったことに改めてお礼申し上げます。私自身はこれからも東京大学の応援団であり続けますので、ご遠慮なくお声かけ下さいますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

はじめに

大学総合教育研究センターでは、教育企画室の委託を受け、卒業生に対する大学教育の達成度に関する調査を実施している。今年度は第3回目にあたり、平成23年3月に平成22年度の卒業生3,101名を対象として実施し、1,936名から回答をいただき、回収率は約62%であった。特に今年度は東日本大震災の影響で、卒業式を縮小した中で、調査の実施には各学部にも多大な協力をいただいた。調査にご協力をいただいた各学部と学生みなさんに御礼を申し上げる。また、関係者の皆様にも御礼を申し上げたい。

この調査は、東京大学の教育・研究環境の向上を目的として、学生に、東京大学の学習環境、学習経験や大学生活についてたずねるものである。調査結果は、大学総合教育研究センターで分析し、その結果を東京大学の自己評価さらに教育研究の改善にさまざまな形で活用している。本報告書は、紙幅の関係で、今回とくに、新たに学生の留学経験や国際経験に関する質問を多く行ったので、その部分を中心に報告する。その他については、前2回と比較して、今後よりいっそうの分析を続け報告していく予定である。

今回は3回目の試みであり、回収率は上昇しているものの、依然として学部によってかなりのばらつきがあり、全体の傾向としてみるためには留意が必要である。今後も、調査を改善し、来年度以降も実施していくことになっている。本報告書に関しても、忌憚のないご意見をいただければ幸いである。また、引き続き各学部と今年度卒業される学生諸氏の調査へのご協力をお願いしたい。

平成24年1月
大学総合教育研究センター長
吉見俊哉

調査実施方法

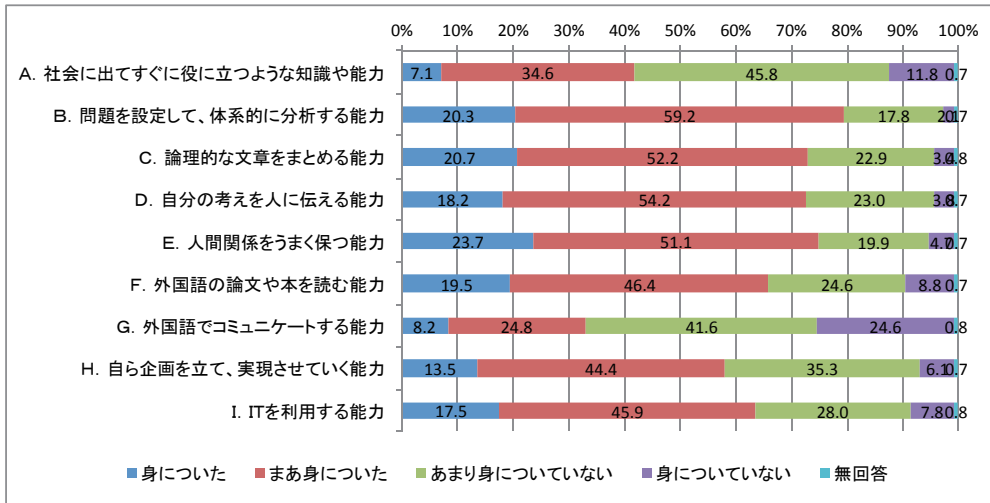
- アンケート送付日 : 平成23年3月25日(卒業式)
- 送付数 : 3,101票(卒業生数)
- 有効回答数 : 1,936票
- 回収率 : 62.4%(回収率は、有効回答数/卒業生数で計算した)

※学部(各学科)が、卒業式後の書類配布時に調査票を配布し、以下のAおよびBの方法で回答・回収した。A、Bともに記載のある学部は両者の併用。

- A. 自記による回答後、各学部が回収(法、工、文、理、農、経済、教育、薬)
- B. 自記による回答後、大学総合教育研究センターに郵送(法、医、文、教養、教育)

外国語の論文や本を読む能力は6割以上の学生が身についたとしている しかし、外国語でコミュニケーションする能力が身についた学生は約3分の1

Q. あなたは、大学時代をつうじて、以下のような点を身につけたと思いますか。

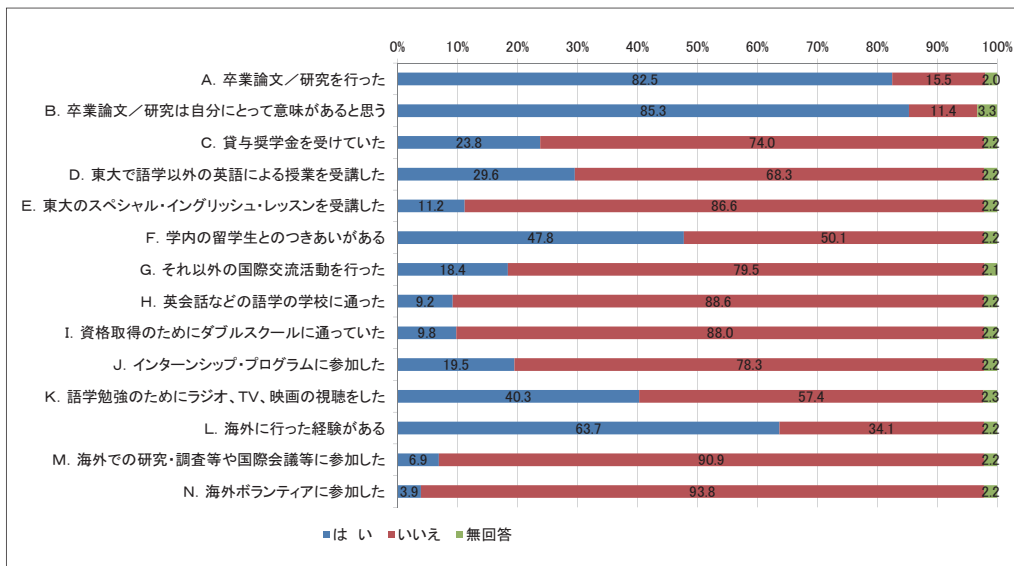


大学時代をつうじて、身につけた能力としてあげられているのは、「B. 問題を設定して、体系的に分析する能力」「C. 論理的な文章をまとめる能力」「D. 自分の考えを人に伝える能力」「E. 人間関係をうまく保つ能力」といった汎用性の高い能力で、いずれも「身についた」と「まあ身についた」を合わせて7割以上の学生が身につけたとしている。これに対して、あまり身についたと評価していないのは、「G. 外国語でコミュニケーションする能力」で、身についたとする学生は33.0%で3分の1に満たない。ただし、「F. 外国語の論文や本を読む能力」については、65.9%と6割以上の学生が身についたとしている。

汎用性の高い能力で、いずれも「身についた」と「まあ身についた」を合わせて7割以上の学生が身につけたとしている。これに対して、あまり身についたと評価していないのは、「G. 外国語でコミュニケーションする能力」で、身についたとする学生は33.0%で3分の1に満たない。ただし、「F. 外国語の論文や本を読む能力」については、65.9%と6割以上の学生が身についたとしている。

汎用性の高い能力は4分の3の学生が身についたとしている 実用性の高い能力はあまり身につけていない

Q. 在学時の学習機会・経験についてお聞きします。



在学時の学習機会・経験として、最も高く評価されているのは「A. 卒業論文／研究を行った」(82.5%) 「B. 卒業論文／研究は自分にとって意味があると思う」(85.3%) で8割を超えている。

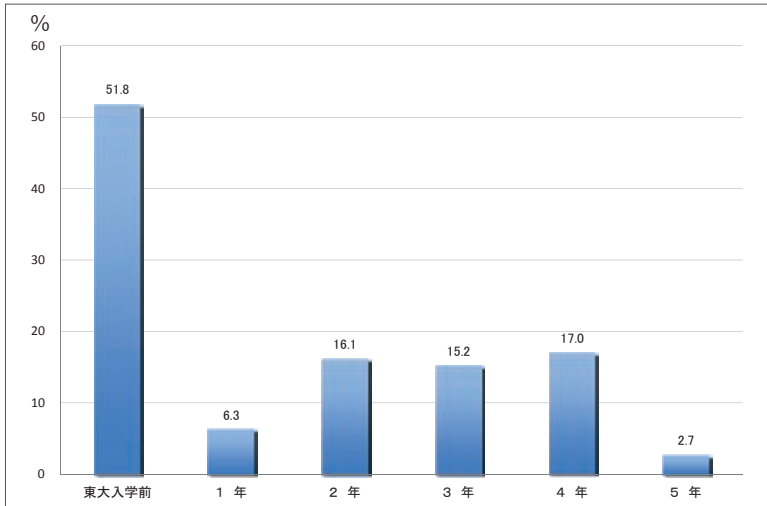
海外経験や語学学習などでは、「L. 海外に行った経験がある」は63.7%と6割を超えているが、「F. 学内の留学生とのつきあいがある」学生は47.8%と半数以下で、「D. 東大で語学以外の英語による授業を受講した」学生も29.6%にとどまっている。

短期留学（1年未満）経験者は約1割、ただし東大入学以前が半数

長期留学（1年以上）経験者は3.5%、ただし東大入学以前が6割以上

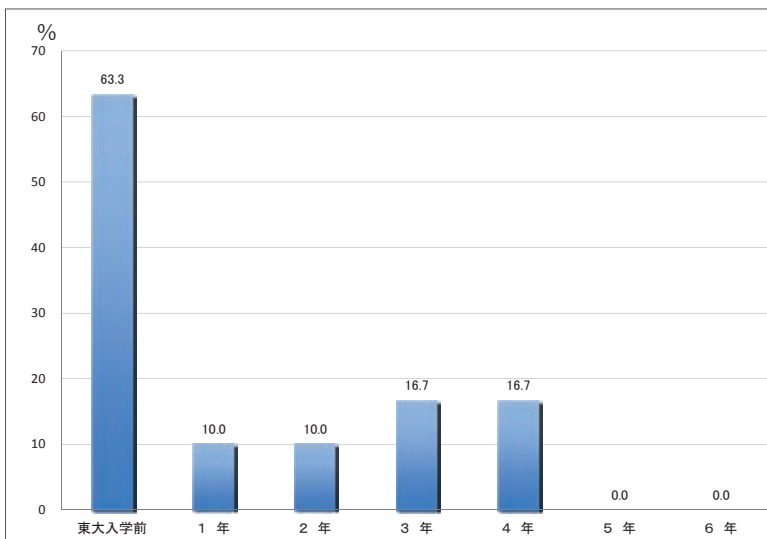
Q. あなたはこれまでに留学をしたことがありますか。それはいつですか。

短期留学（1年未満）をした時期



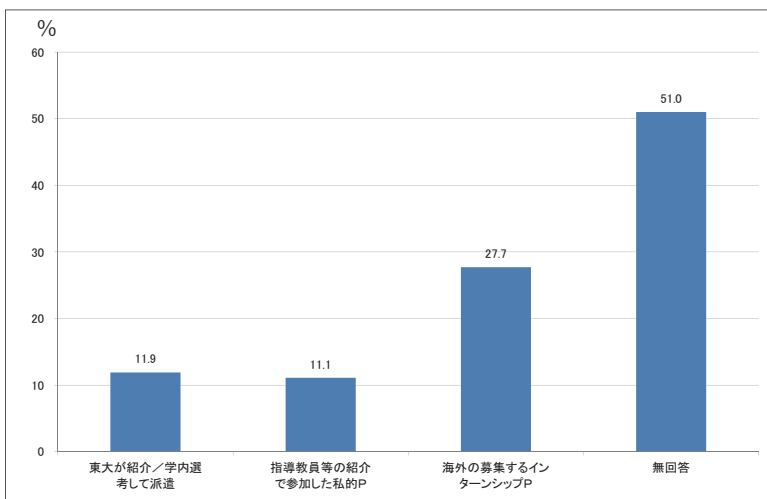
調査結果によると、短期留学（1年未満）経験者は、全体の12.2%と1割強にすぎない。左のグラフのように、そのうち51.8%と半数以上は、東大入学以前に経験している。学年別には1年次が6.3%、5年次が2.7%と少ないが、その他の学年では16%前後となっている。

長期留学（1年以上）をした時期



調査結果によると、長期留学（1年以上）経験者は、さらに少なく3.5%にとどまっている。左のグラフのように、そのうち東大入学以前に経験した者の割合が63.3%と6割を超えている。1、2年は10%、3、4年は16.7%となっている。5、6年生には長期留学経験者はみられない。

留学プログラムの種類（複数回答）

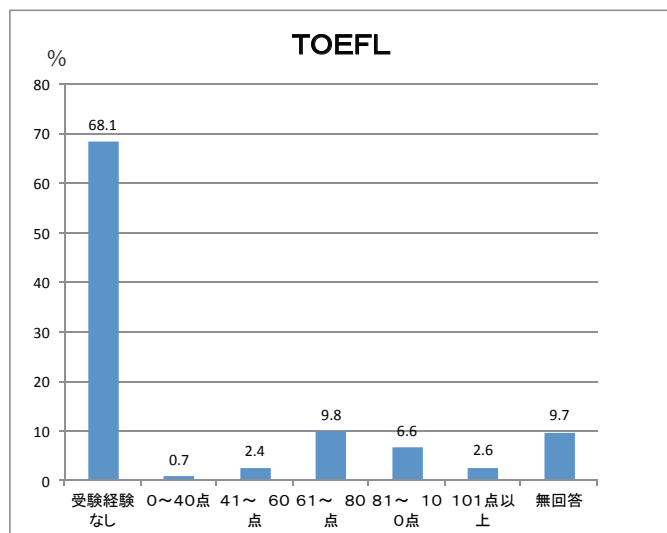


留学経験者の経験したプログラムは、「海外の大学や会社などが募集するインターンシップ・プログラム」が27.7%と最も多く、「東京大学が紹介/学内選考して派遣するプログラム」が11.9%、「指導教員等の紹介で参加した私的プログラム」が11.1%となっている。

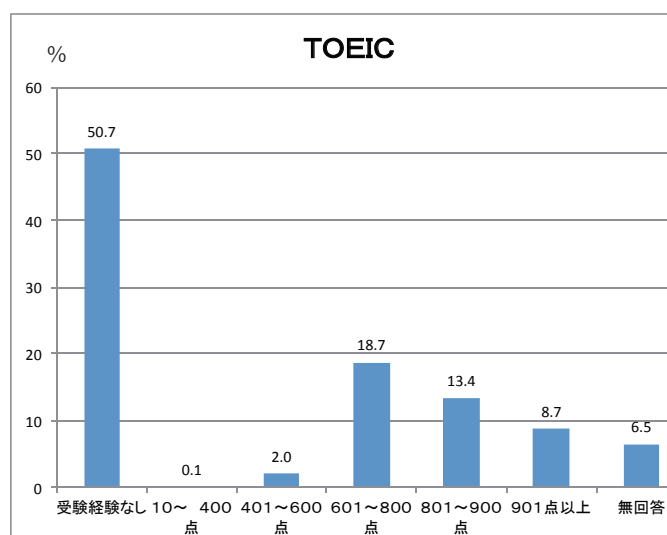
TOEFL 受験経験者は約 2 割

TOEIC 受験経験者は約 5 割

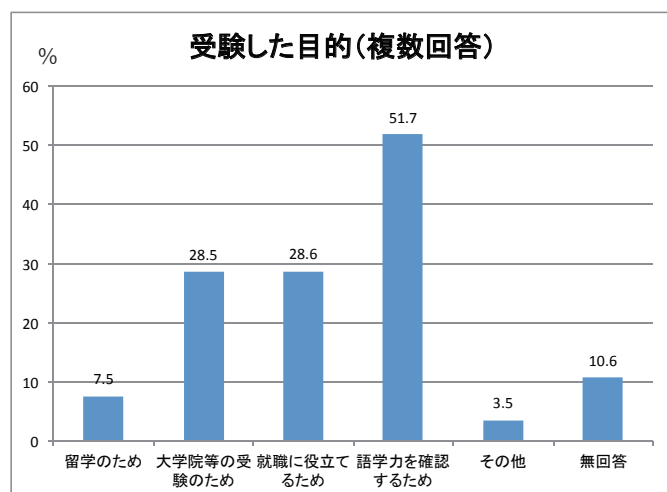
Q. あなたは、在学中に TOEFL や TOEIC 等のテストを受験したことがありますか。また、点数はどのくらいでしたか。



調査結果によると、TOEFL 受験経験者は全体の 22.1% となっている。左のグラフのように、得点は 61 ~ 80 点が 9.8% と最も高い割合になっている。
* TOEFL (BIT) は 120 点満点



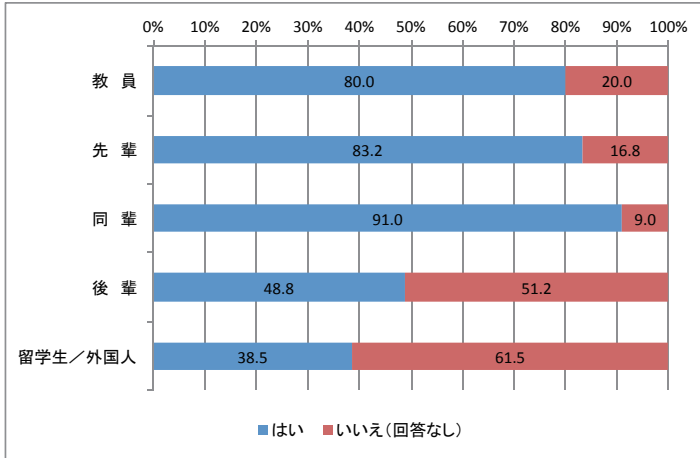
調査結果によると、TOEIC 受験経験者は 42.9% と TOEFL 受験者と比べると約 2 倍と高くなっている。左のグラフのように、得点は、601 ~ 800 点が 18.7% と最も高い割合を示している。
* TOEIC は 990 点満点



語学テストの受験目的は「語学力を確認するため」が 51.7% と最も多くなっている。次いで、「就職に役立てるため」28.6%、「大学院等の受験のため」28.5% で、「留学のため」は、7.5% と少ない。

学問的な交流をした相手は、同輩：約9割、教員・先輩：約8割、後輩：約5割、留学生・外国人：4割以下

Q. あなたは、次のような人と学問的な交流がありましたか。

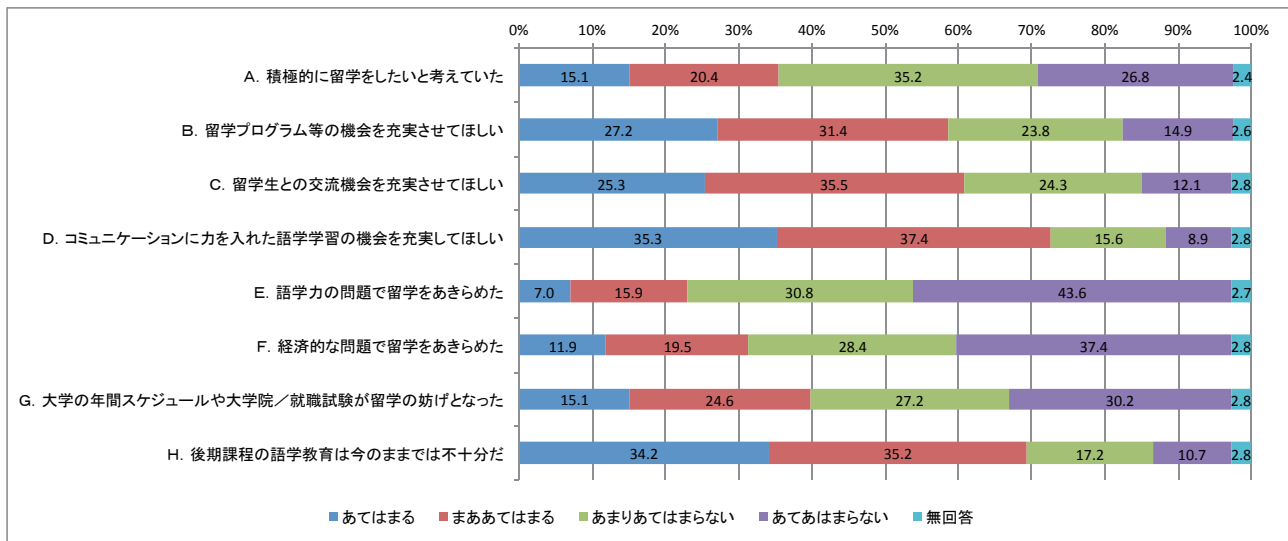


最も学問的な交流があった相手は、「同輩」が約9割(91.0%)、次いで「先輩」が8割強(83.2%)、「教員」が8割(80.0%)となっており、「後輩」は半数以下(48.8%)、「留学生・外国人」は4割以下(38.5%)にとどまっている。

積極的に留学したいと考えていた学生は約3分の1

大学の年間スケジュールや大学院・就職試験が留学の妨げ：約4割

Q. 留学や語学学習についてお聞きます。



「A. 積極的に留学をしたいと考えていた」学生は、約3分の1(35.5%)であるが、留学や語学学習に対する要望で最も多いのは、「D. コミュニケーションに力を入れた語学学習の機会を充実してほしい」で7割以上(72.7%)である。次いで、「C. 留学生との交流機会を充実させてほしい」(60.8%)や「B. 留学プログラム等の機会を充実させてほしい」(58.6%)が6割近くになっている。

また、「E. 語学力の問題で留学をあきらめた」学生は、約4分の1(22.9%)である。さらに、「F. 経済的な問題で留学をあきらめた」学生は、約3割(31.4%)、「G. 大学の年間スケジュールや大学院/就職試験が留学の妨げとなった」とする学生は、約4割(39.7%)となっている。また、「H. 後期課程の語学教育は今のままでは不十分だ」とする学生も7割近く(69.4%)にのぼっている。

大学総合教育研究センター ホームページ：<http://www.he.u-tokyo.ac.jp/>
 問い合わせ：大学改革基礎調査部門 担当：小林・劉(内線：22016)まで

NEWS

一般ニュース

学生相談ネットワーク本部 なんでも相談コーナー 柏分室開設

一般

11月10日(木) 柏キャンパスに「なんでも相談コーナー 柏分室」が開設され、このたび、武藤芳照理事(副学長) 揮毫の看板が完成した。

なんでも相談コーナーは、2008年4月、本郷キャンパスの安田講堂2階に総合案内窓口として開設された。2010年3月には、白金キャンパスに「白金キャンパスなんでも相談室」が、そして2011年秋、柏キャンパスにも上述のとおり分室が開設された。

なんでも相談コーナーは、「予約なし」「相談内容に限定なし」で悩み等を受け止め、必要に応じて専門窓口に繋ぐという役割を果たしている。

この櫺の看板は、大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林からご提供いただいた。



写真左から、中丸典子相談員、上田卓也新領域創成科学研究科長、武藤芳照理事(副学長)、古田元夫学生相談ネットワーク本部長、富田靖博教育・学生支援部長、福井諭相談員

■なんでも相談コーナー 柏分室

開室日：当面の間、毎週木曜日

開室時間：10時～17時

場 所：新領域基盤棟2階2B5室

連絡先：04-7136-4129



写真左から、福井相談員、加藤喜子相談員(室長)、中丸相談員

産学連携本部

「金属資源循環の課題と安定供給に向けて
—資源クライシスに備えて—」
—第22回科学技術交流フォーラム開催—

一般

12月7日(水)、武田先端知ビルにて、東京大学産学連携協議会の会員を対象とした第22回科学技術交流フォーラムが開催された。産学連携協議会は2005年に東京大学と産業界との産学連携推進のプラットフォームとして設立された組織で、2011年7月現在で、企業や団体の会員数は725社となっている。

冒頭、保立和夫産学連携本部長から、科学技術交流フォーラムの開催趣旨にふれた開催挨拶があった。「協議会は、東京大学と産業界とが一緒に社会に寄与する価値創造を行う、『知の共創』の場である。また、フォーラムを契機として、産業界と東京大学の英知が結集され、最適な産学のパートナーシップを築き、具体的な連携活動が開始されることを期待している」とのことであった。

次に、松本洋一郎理事(副学長)から挨拶があり、「日本の資源調達は極めて重要な課題がある」ことが示された。

そもそも資源の乏しい日本にとって、資源の調達に極めて大きな課題である。さらに、世界の一部に偏在する資源の獲得競争はますます激化が予想される。今後は途上国のさらなる経済発展が見込まれ、輸出国の情勢等により原材料が日本に入りにくくなることが懸念される。

基幹資源である金属やその化合物を長期的にかつ安定的に日本の産業界に提供するためには、産学官が連携して以下の4課題について多角的に取り組む必要がある。すなわち、①供給源の多様化、②備蓄を含む資源循環の明確化、③精錬を含む3R(リデュース、リユース、リサイクル)技術の開発、④代替材料や新規材料の開発で

ある。今回のフォーラムは、そのような観点から開催されたものである。

保立本部長はその挨拶の中で「これらの4課題に取り組み、長期にわたる持続可能な『ものづくり国家、日本にふさわしい資源戦略』を展開していく必要がある」と指摘した。また、松本理事（副学長）は「産官学政が一体となった、戦略的な研究開発が極めて重要である」と主張した。

続いて、星野岳穂氏（経済産業省製造産業局非鉄金属課長）による「レアアースをめぐる最近の動向と今後の課題」と題した特別講演があった。講演では、中国のレアアース輸出数量管理（生産規制も含む）、輸出価格の高騰と内外価格差、経済産業省の中国政府への働きかけやレアアース等の鉱物資源対策などが報告され、「レアアースのサプライチェーンを見ると日本の強みは素材分野と考えており、引き続き、代替材料や使用量軽減のための技術開発を推進する」とのことであった。



基調講演を行う岡部徹教授

岡部徹教授（生産技術研究所サステイナブル材料国際研究センター）による基調講演では、「レアメタルの資源問題と対応」と題した報告があった。その中でレアメタルの採掘や製錬では、経済合理性を追求すると自然環境を大きく破壊することが示された。また、「現在の社会システムの最大の問題点は、レアメタルをはじめとする地球が生んだ“奇跡”の産物である鉱物資源の評価があまりにも低い点にある。そのため、タダ同然で採掘され、消費されている。鉱石が本来有するバリュー・オブ・ネイチャについて真剣に考えるべきである」との主張があった。

佐川真人氏（インターメタリックス㈱代表取締役社長）の招待講演では「ネオジム磁石と資源—10万t/年の巨大需要に向かって—」と題した報告があった。旧住友特殊金属㈱所属時に佐川氏はネオジム磁石（Nd-Fe-B系磁石）を開発しており、当時の開発秘話や材質特性などの紹介があった。また、インターメタリックス㈱を設立された後の研究として新しい焼結法による使用量軽減技術等について報告があった。「将来、開発した技術を自動車などの産業に供給したい」とのことであった。



資源問題に対する関心が高く、活発な質疑応答が行われた

ほかに、前述の①～④の各分野において第一線で活躍する学内研究者から最新の報告が行われた。加藤泰浩准教授（工学系研究科 システム創成学専攻）からは、講演1「新しい海底鉱物資源“レアアース資源泥”の発見とその開発可能性」において、①供給源の多様化に関する報告があった。醍醐市朗特任准教授（工学系研究科 マテリアル工学専攻）からは、講演2「人工物圏（社会）における物質循環の“見える化”」において、②備蓄を含む資源循環の明確化に関する報告があった。森田一樹教授（生産技術研究所サステイナブル材料国際研究センター）からは、講演3「鉄、シリコンの精錬技術」において、③精錬を含む3R技術の開発に関する報告があった。長谷川哲也教授（理学系研究科 化学専攻・神奈川科学技術アカデミー兼務）からは、講演4「ITO（酸化インジウムスズ）代替透明導電材料の開発」において、④代替材料や新規材料の開発に関する報告があった。詳細については下記URLを参照していただきたい。

今回は、学内外研究者も含め多種多様な産業分野から、約200名の参加があり、活発な質疑が行われた。これまでの21回のフォーラムと比較して事前予約者の多くにご出席いただき、この分野への関心の高さが窺われる。本フォーラムが、資源問題に対するの東京大学産学連携協議会の会員の情報交換の場として活用され、課題解決に向けた歩みが進められたものと確信する。

URL：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/jp/kyogikai/>



本部環境安全課

本部防災訓練を実施

一般

12月21日（水）に平成23年度東京大学本部・工学系等合同防災訓練を実施した。今回は、部局との連携を課題とし、工学系等の学生（約2,000人）及び教職員の協力を得るとともに、障害のある学生・教職員が円滑に避難できるように、バリアフリー支援室とも連携して大規模な訓練となった。

首都直下型地震が発生したという想定の下、避難訓練及び安否確認訓練が行われ、引き続き、災害対策本部活動訓練が行われた。

災害対策本部活動訓練には、濱田純一総長をはじめ、役員全員のほか、多くの本部教職員が参加した。山上会館に災害対策本部を設置するにあたり、建物の応急危険度判定訓練が行われた後、総長が災害対策本部の設置を宣言した。

役員等で編成された災害対策本部員による意思決定訓練のほか、教職員約100名が総務・広報班、警備誘導班、物資調達班、施設環境班の4班に分かれ、それぞれ各部局への情報収集訓練、避難誘導支援、立入禁止措置、物資配給訓練、インフラ確認訓練等を行った。また地震により停電・断水・負傷者が発生したという想定で、電源車、災害対策用トイレの設置、応急処置訓練等も行った。

訓練終了後、濱田総長、全理事、北森武彦工学系研究科長、萩谷昌己情報理工学系研究科長より意見・感想が述べられた。部局との連携訓練の結果、決定から指示が部局本部へ伝達されるまでのタイムラグなど様々な課題が浮き彫りになった。また、意思決定訓練も3回目となりよりスムーズに動けるようになったこと、英文での広報の体制が追加されたことなどが評価された。



対策本部内の各班の様子



対策本部意思決定訓練の様子



工学系等 災害対策本部の様子



救援・復興支援室

被災地における学習支援ボランティアの活動報告

一般

救援・復興支援室では、持続可能な形でのボランティア活動支援の一環として「被災地のニーズに対応した学生による学習支援活動への支援」を進めている。このたび、岩手県陸前高田市教育委員会等が主催する被災児童・生徒を対象とした学習支援事業「学びの部屋」に協力し、年末・年始の期間において学習支援ボランティア活動の支援を実施した。

年末グループのA班7名（学部学生5名、大学院学生2名）は、12月26日（月）～29日（木）の3泊4日の日程で、陸前高田市内の3箇所の小・中学校を利用して開催される「学びの部屋」において、冬休みの宿題や模擬試験問題等に取り組む中学生（延べ78名）の学習サポート活動を行った。

また、年始グループのB班9名（学部学生5名、大学院学生4名）は、1月6日（金）～9日（月）の3泊4日の日程で、英語検定に向けての講座「英語の部屋」やA班同様の冬休みの宿題等に取り組む中学生（延べ93名）の学習サポート活動を行った。

この学習支援ボランティア活動は、今後も継続して実

施する予定である。



生徒たちの学習を支援する学生の様子



学生相談ネットワーク本部

講演会「博士課程・ポスドクのキャリアパスを拓く」を開催

1月11日（水）、学生相談ネットワーク本部主催講演会「博士課程・ポスドクのキャリアパスを拓く」が小柴ホールにて開催され、100名を超える来場者があった。

武藤芳照理事（副学長）、古田元夫学生相談ネットワーク本部長による挨拶に続き、体験者の立場から、博士課程出身者の濡木融氏、遠藤撰氏にご自身のキャリア選択の経験談を、支援者の立場から、人材育成に力を注いでこられた山村力先生（東北大学高度技術経営人材キャリアセンター・副センター長）に人材育成に関するお話を、それぞれうかがった。質疑応答では、キャリアパスに悩む大学院生からの質問が多数あり、有益な講演会となった。



ディスカッション風景

部局 ニュース



大学院教育学研究科・教育学部

部局
バリアフリー教育開発研究センター主催
公開研究会「障害・クィア・シティズン
シップ」開催

1月19日（木）、教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター主催による公開研究会「障害・クィア・シティズンシップ」が開催された。同センターは2009年の設立以降、同年6月の市民公開フォーラム「教育のバリアフリー、そしてバリアフリーの教育」、2011年2月の国際シンポジウム「人と人との間のバリアフリー」という2度の大きなイベントを開催してきたが、今回はそれらの中で提起された論点を深め、学術的課題を整理するための企画として公開研究会が開催された。当日は、障害領域、クィア領域の双方から研究者と活動家が計52名参加し、熱のこもったディスカッションが交わされた。

研究会では、白石さや教授（同センター長）の開会挨拶の後、まず星加良司講師（同センター）から、「障害者」と「性的マイノリティ」というカテゴリーの概念的な類似性と、それらに対して働く規範の抑圧的な機能を今日の社会状況との関連で考察することの必要性について論点整理がなされ、研究会における課題設定の意義が説明された。それを受けて、カレン・ナカムラ准教授（イェール大学）から「トランス／ディサビリティ——比較人類学の視点から見る障害、クィア、性同一性障害の現代的運動」と題する講演があり、日米の障害者運動とトランスジェンダー運動の歴史と特徴について紹介した上で、障害研究とジェンダー／セクシャリティ研究の知見を交差させることによって、双方の分野により豊かな発見や洞察がもたらされることを、具体的な事例を通じて明らかにした。

その講演に対し、清水晶子准教授（大学院総合文化研究科）によるクィア理論研究の立場からのコメントがあり、現在の日本において障害研究とジェンダー／セクシャリティ研究の交差を模索、展開するに当たっての課題と論点の提示がなされた。その後フロアから、出産に対する優生学的視点への洞察の重要性、多様性を肯定する論理の在り方、ケアプロバイダーの中のセクシャルマイノリティ問題等に関わる様々な意見が提出され、活発な議論が行われた。研究会は、野崎大地教授（同センター運営委員）の総括的な挨拶をもって、盛況のうちに閉会した。

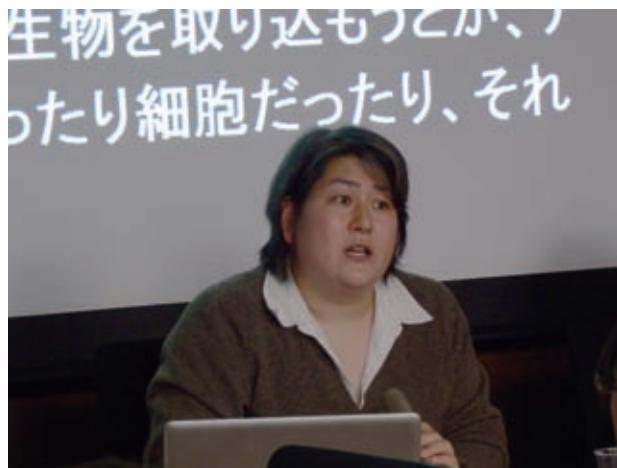
同センターでは、今後もバリアフリー教育の実践的な研究開発を実施するほか、バリアの社会—文化的な生成メカニズムについての理論的な探求を目的として、

様々な領域の研究者や市民とともに知的交流を行う場を設けていく予定である。

バリアフリー教育開発研究センターのサイト：
<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/>



課題設定の意義を説明する星加講師



熱く講演をされるカレン・ナカムラ准教授



ディスカッションが活発に交わされる様子

先端科学技術研究センター

部局

「魔法のふでばこプロジェクト」成果報告会開催・タブレットPCで障害児の学習を支援

タブレットPCを使って障害児の学習を支援する「魔法のふでばこプロジェクト」の成果報告会が1月21日(土)、先端科学技術研究センター(中野義昭所長)で開催され、全国の特別支援学校の教員や企業関係者など約200人が参加した。

魔法のふでばこプロジェクトとは、先端研の中邑研究室(中邑賢龍教授・人間支援工学)とソフトバンクグループ、NPO法人e-AT利用促進協会が、特別支援学校にタブレットPCのiPadを無償で貸し出し、学習支援を行う事例研究プロジェクト。昨年4月から18都府県の34校に計100台を貸し出している。報告会では、各校の担当者が集まり、実際の教育現場の活用事例を紹介した。



全国の特別支援学校の担当者が事例発表を行った

鳥根県安来市立赤江小学校の担当者は、iPadを導入後、知的障害を持つ児童が漢字を調べる機会が増え、使用する漢字の数が増えた例などを報告。「辞書で調べることが難しい子どもにとって、机の上で簡単に検索できる効果は大きい」と語った。

香川県立高松養護学校の担当者は、教科書や本のページをめくるのに苦労していた肢体不自由の児童が、iPadでデジタル教材を使うことで、わずかな指の力でページをめくれるようになったと報告。「字を書くのにも時間がかかっていたが、iPadを使うと指一本で記録できるようになり、以前よりも考えることに時間を使えるようになった」と紹介した。

中邑教授は報告会の前に「これからの特別支援教育」をテーマに基調講演を行い、「タブレットPCを使うことで、素晴らしい実践がたくさん出てきた。これからも障害のある子どもが能力を発揮できるような方法を模索していきたい」と話した。



基調講演で特別支援教育について語った中邑教授



全国から集まった教員らで会場は満席になった

大学院教育学研究科・教育学部

部局

留学生懇談会の開催

大学院教育学研究科・教育学部では、1月25日(水)に留学生懇談会を開催した。山上会館地下一階の「御殿」で行われ、教職員・留学生等を合わせて約50名が出席した。

藤村宣之教授(国際交流委員会委員)の司会で進行し、冒頭の大桃敏行学校教育高度化専攻長(市川伸一研究科長代理)による開会の挨拶では、昨年度末に起きた東日本大震災を乗り越え日本で勉学を続ける留学生・日本人学生・教職員一同とともに無事に留学生懇談会を開催できたことへの喜びと、研究科に在籍する留学生数(平成24年1月現在、63名)や国際交流室リニューアルにも表れた教育学研究科・教育学部における国際化の動きへの喜びが語られた。乾杯の後、歓談を挟んで、10月から研究科に仲間入りした新入留学生(外国人研究生の李彤朝さん)と外国人客員研究員(王国輝さん)の自己紹介が行われた。

歓談に続き、李彤朝さんによる中国茶の紹介と実演が行われた。使われた中国茶、茶器、茶道具はすべて李さ

んがこの日の為に用意したもので、希望者が実際に中国茶を試飲し、器に移った香りを楽しんでからお茶を口に含むといった独特の中国茶の飲み方を体験した。



中国茶の飲み方についての説明を受ける参加者

実演が終わった後でもなお、実演を行った李さんの周りを参加者が囲み、試飲したり中国茶の文化について質問したりと、お茶をきっかけに異文化についての理解を深めたいへん有意義なひとときとなった。

半年に一度行われるこの留学生懇談会では、今回も留学生・日本人学生・教職員がリラックスした表情でテーブルを囲み、部屋のあちこちで楽しそうな笑い声が上がっていた。

恒吉僚子教授（国際交流委員会委員長）による閉会の挨拶では、日本人学生・留学生を問わず世界的に活躍できる国際的人材育成への期待が高まっている現状を踏まえ、教育学研究科・教育学部も学生への支援を続け、学生の活躍の場を広げていきたいとの抱負が述べられ、一同がその想いを新たにされた。



参加した留学生達

一 特集テーマ&執筆部署募集告知一 特集の記事を 執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集はとても効果的です。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

1. 制作方法

① テーマの選定

全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することになっています。まずは、本部広報課に気軽にご相談ください。特集に馴染まないテーマでない限り、対応します。

（締切日の1カ月前位までに一度ご相談ください）

② 内容・構成の決定

テーマが決まったら執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。見開き2ページをひとつの単位とします。内容が盛りだくさんの場合は4ページ、または6ページで構成することもあります。

③ 原稿の執筆

決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。字数等は編集スタッフが提示します。原稿はWordファイルでご制作下さい。

④ ビジュアル要素の提供

特集に盛り込む写真・図・イラストを執筆部署から提供していただきます。手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影にうかがいます。

（学外または他部署のホームページ等から写真・図・イラスト等を転用する場合は著作権に十分留意し、必ず先方の許諾を得てからご使用ください）

⑤ デザイン

お書きいただいた原稿、ご提供いただいた写真・図等を素材にして、編集スタッフがページデザインを作ります。もちろん、執筆部署でデザインを作っていたとしてもかまいません。

⑥ 校正

デザインしたページイメージをお送りしますので、主に文字校正を行なっていただきます。

⑦ 完成

刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布します。

2. 締切日

あらかじめ、こちらから期日を申しますので、ご協力をお願いします。通常の学内広報は切日の**数日前**を原稿締切日とします。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報課 広報企画チーム

TEL：03-3811-3393 内線：82032

E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ひょうたん島通信

大槌発!

第2回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬莱（ほうらい）島という小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から毎月、沿岸センターと大槌町の復興の様子をお届けします。

被災地大槌での共同利用シンポジウム開催

岡 英太郎（大気海洋研究所海洋物理学部門准教授）

国際沿岸海洋研究センターでは、海洋物理学と気象学の2つの共同利用シンポジウムからなる通称「大槌シンポジウム」が、1981年以来毎年、主に夏休みの時期に開催されてきました。このシンポジウムは日本東方海域および東北地方をメインに広く北太平洋を対象とする海洋物理・気象研究の発表、討論、情報交換の場となってきました。また、伝統的に大学と官庁の研究者間の貴重な交流の場となってきました。

私はたまたま2010年度と2011年度の海洋パート世話人を務めており、2010年の夏、例年通りシンポジウムを開催した後、「また来年も大槌で会いましょう」と言って他の参加者と別れました。その半年後、東日本大震災が起こり、私は慣れ親しんだ大槌の町が壊滅的な状態となっているのを学術研究船白鳳丸船内のテレビで見て、た

だ茫然としていました。

震災後、全国の研究者仲間から大槌の安否を気遣うとともに大槌シンポジウムの存続を願うメールを頂き、シンポジウム開催の検討を始めました。その結果、大槌町からは大変な状態であるにもかかわらず全面的なご協力を頂き、シンポジウム会場（大槌町役場 浪板交流促進センター）をお借りして、2011年11月11～13日に無事開催することができました。テーマは、海洋パートが「黒潮・親潮統流域の循環と水塊過程」、気象パートが「北日本を中心とした降水・降雪特性に関わる海洋大気陸面過程」でした。

今回も全国各地から両シンポジウム合わせて50名の参加、27件の講演があり、例年通りのリラックスした雰囲気なか、熱

い議論が交わされました。また、夜には浪板交流促進センター近くの食堂「さんずろ家」にて懇親会が催され、さらに浪板交流促進センターでの2次会が夜遅くまで続くなど、研究者間で大いに交流を深めました。

参加者の多くは、これまでもこのシンポジウム等で何度も大槌を訪れており、初日は変わり果てた大槌の町の姿を眺めて文字通り言葉を失っていました。しかし、開会のご挨拶を頂いた高橋浩進副町長も述べられた通り、研究内容とは直接関係のない大槌の地に私たち海洋・気象研究者が来て研究集会を行うことは、大槌町の活性化のために少なからぬ意義を持っているはずです。ぜひ来年度以降もこのシンポジウムを大槌の地で続け、これまで以上に盛り上げていきたいと思っています。



【写真】 宿泊場所の浪板交流促進センターにて
【背景写真】 大槌駅にて

国際沿岸海洋研究センター専門職員・川辺幸一です。震災後しばらく柏キヤンバスで勤務していましたが、2012年2月からまた大槌に戻っています。復興に向け、日々変化を遂げる大槌町のローカルな話題を紹介します。



◆明日に架ける橋 Bridge Over Troubled Water — 復興を目指す町のランドマーク —

今回ご紹介するのは、「シーサイドタウンマスト」さんです。

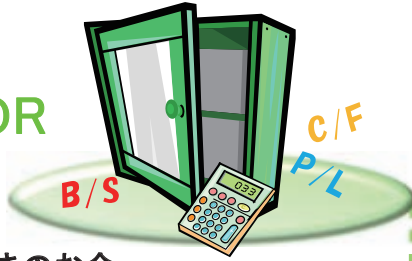
沿岸地区最大のショッピングセンターとして大槌町のランドマーク的な施設でしたが、他の建物と同様、津波により全壊の被害を受けました。しかし、早期再開を望む町民の期待に応え、2011年12月22日に営業を再開。テナントとして、スーパー、ホームセンター、銀行、エステサロン、美容室、書店、飲食店など、45店舗の専門店が outlet しています。

施設内には広いコミュニティスペースもあり、大人だけでなく子供達の姿も多く見かけます。交流の場としての機能もはたしており、大槌町復興のシンボルとなり得るのではないのでしょうか。この施設の復活により、大槌町の生活レベルが格段に向上したことは間違いありません（あくまでも被災地レベルでの話ですが）。施設内を歩き回っていると、一瞬、被災地にいることを忘れてしまうような感覚を覚えますが、一歩外へ出て町中を見渡せば、そこには津波の大きな爪痕が残る風景が広がり、そのギャップに愕然とするのです。

ともかく、一歩一歩ではありますが、確実に復興へと進んでいる大槌町でした。



決算のDOOR ～数字が語る 東京大学



第17回 約束つきのお金

受験シーズンも間もなく終了。受験生全員に春が来るといいますね！ということと関係はありませんが、『決算のDOOR』でもみなさんに問題を出そうと思います。

まず1問目。(難易度★☆☆)

— いつか誰かに返さなくてははいけないお金ってなに？

答え一借金

ふむふむ、残念なことに我が家にもあります(ヤレヤレ)。では2問目。ちょっと難しいかも。(難易度★★★)

— 将来の出費や損失に備えて、今のうちに計画を立てて準備しておくことを会計ではなんというの？

答え一引当金

聞いたことありますか？退職金や建物の修繕費などです。損したつもりで貯金するようなイメージですが、将来何らかの支払い義務をもたらす点が借金と同じであるため、会計上「負債」の仲間に入ります。

え～、ではでは最後の問題。コホン。(難易度★★★★)

— 「使って」と渡されるのに、自分のものにはならない。でも使わないと返さなくてははいけない。そして使った後によく自分のものになるお金。これってなに？

答え一前受金

東京大学では受託研究費が代表格。実はこちらも「負債」です。お金を払う必要がないのに、なぜかって？それはお金の代わりに将来モノやサービスなど見返りを提供しなければならぬ義務を負うからです。見返りを提供できて初めて自分の収入になります。受託研究費の場合は研究費の見返りに「研究成果を報告する」義務が発生するため、堂々「負債」ファミリーの一員になるのです。

さて、国立大学法人の大事な収入源、運営費交付金も受託研究費と同じ性格の持ち主。というのも毎年国が予算を組んで配分する際、中期計画や年度計画などで「私たちはこのお金でこんな教育、こんな研究を行います」とお約束をさせていただき金だからです。そのため配分当初は「運営費交付金債務」と負債勘定に計上し、先生方が1年を通して教育や研究を行っていくことで約束が果たされ、「運営費交付金収益」と収益勘定になるのです(ようやく自分のモノに！)。

下の表は過去3年の東京大学の運営費交付金の交付額です。年間2千億円ほどかかる本学の経費のおよそ半分が運営費交付金で賄われています。この850億円の原資は税金。いわば大学は国民のみなさまから託されて事業を行っているのです。だからこそ、国民のみなさまが見て納得できる報告書が必要なわけですが、今の決算書では交付金の使い道は報告できても、その成果まで表すことはできません。

(単位：億円)

説明責任が果たせる決算書って、どんなもの？もうすぐ法人化後9年目を迎える私たちに課された5つ星(★)級の問題でもあるのです。(青)

21年度	22年度	23年度
878	856	853

本部財務部決算課 (内線22126)

E-mail: kessanka@m1.adm.u-tokyo.ac.jp

◆このコラムは一見複雑な国立大学法人会計をわかりやすくご紹介することを目的とし、文章の読みやすさを重視しているため、ある程度恣意的な表現を取る場合があります。あらかじめご了承ください。—ご意見、ご質問お待ちしております！

インタープリターズ・ バイブル

vol. 55



科学技術インタープリター養成プログラム

学術発表と科学者の関係-再考

渡邊 雄一郎

大学院総合文化研究科 教授
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門

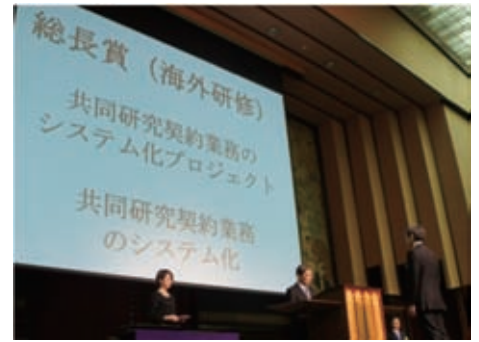
ドラマ「家政婦のxx」が昨年末大いに話題となった。なぜにここまで視聴率が上がるのか。人気俳優たちを起用した効果もあろうが。それはそれは不思議な筋書きである。ある状況から次への展開は現実社会では起こりえないと思われるのであるが、理性で考えさせる余裕を持たせないうちに、次の展開へと見る人をひき込んでいく。前の状況を後始末していない雑な展開であるが、見る人を期待させる。朝ドラ「おひさま」は、東日本大震災直後から放映され、主人公の生き方が被災者に元気をもたらした話題となった。脚本家はその筋書きをプロデューサーやスタッフと議論を重ねたという。フィクションでありながら、現実感を醸しつつ、見る人をほっとさせる不思議さがあった。かつての「ちゅらさん」と共通な個性を感じさせ、ドラマがあふれる中で同じ脚本家の個性が伝わることは素晴らしい。次の「カーネーション」も人気だが、小篠女史の人生に基づくもので、圧倒的な真実の強さに基づく脚本の強さを感じる。

ドラマ論を展開するつもりはないのだが、こうしたことをなぜかある学術発表を思い出しながら想起したのである。名だたる科学者たちが次々にデータを披露しながら、新しい内容を発表していく。その際なぜかドラマとそれを書く脚本家、プロデューサーの関係を思い出したのである。科学者は自ら脚本家あるいはプロデューサーのようになり、聴衆の関心を引きつけ、その期待に答えるように流れを示し、魅惑的な結論あるいはモデルを描き出す。同じ実験データでも非常にうまく見せつける。まず問題設定を行う。なぜと聴衆に期待、疑問や興味をまず起こさせる。その喚起されたものに答えるべく、実験を示し、どのような結果が得られたか、聴衆をハラハラさせながら見せる。ハッピーエンドのことも多いが、ときに予想と大きく異なる結果(筋書きの大逆転)を見せつけられたりする。そしてフィナーレ。ヒーロー誕生のような結末だ。

論文の読者やシンポジウムの聴衆をいかにひきつけるか、ワクワクさせながら、ほら皆さんこれが新発見ですと見せつける。研究実験のデータパターンや解析の展開は、特定の科学者の個性を発露させていることがあり、研究者として懂れるものだ。しかし当然ドラマとは大きな違いがある。離婚、不倫は登場しないのは当然であるが、科学はすべて実験に基づいた事実によって展開させるドラマである。スポンサーを満足させるため、注目を集めるための創作、虚構は許されない。しかし時にドラマ制作時のような魔性の幻覚があらわれるのか、その鉄則をまもれなくなるという問題が散発するのも悲しい事実である。

★科学技術インタープリター養成プログラム
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>

業務改善から一歩踏み込んだ業務改革の取り組みを奨励しようと、「2011年度業務改革総長賞表彰式」(主催:業務改革推進室)が12月16日、安田講堂で行われました。改称した今回からは、書類審査に加え、応募者へのヒアリングを課し、評価基準も加味して審議。当本部知的財産部が工学系・情報理工学系等事務部財務課外部資金チームと取り組んだ、「共同研究契約業務のシステム化～共同研究契約業務のシステム化プロジェクト～」が栄えある総長賞(海外研修)を受賞しました。



濱田総長から表彰状を受け取る峯崎主幹

濱田総長は講話の中で、「安定性と正確さ、同時に柔軟かつ挑戦的である組み合わせがうまく動くことで、3つのS(スリム、スマート、スピーディ)を実現することができる。これからの時代の安定性というのは、変化することに正面から向き合い、変化を日常化することでしか得られないと思っている。変化に正面から向き合うときには、柔軟さや挑戦とともに安定性と正確さが大切になり、安定性と正確さという土台こそが、変化に対応できる確かなジャンプ台になっていく。業務改革は日々の業務をスマートにする試みではあるが、同時に大きな変化に見合った動きでもある。自信と誇りを持って、ぜひ引き続き“森を動かす”という中期的ビジョンに向けて、着実に歩みを進めていただければと思っている」と挨拶されました。その中でも特に、改善という、やや遠慮がちな言葉から、改革という、より積極的な言葉を使うことで、取り組みが進歩してきている点を高く評価されました。

今回、受賞した当本部の取り組みは、ワンクリックでデータ入力から契約書、会議資料、報告書の作成が行えることで、年度報告書の作成が数分で可能になる等、契約管理業務の大幅な効率化が高く評価されました。これは、昨年度、当本部内で実施し、総長賞を受賞した取り組みを更に発展させ、工学系・情報理工学系等事務部財務課外部資金チームの中嶋直子

係長からの情報・フィードバックを基に、当本部知的財産部の峯崎裕知的財産統括主幹が新たなシステム構築に取り組んだものです。

メンバー代表である峯崎主幹は、「栄えある総長賞を受賞することができ、大変うれしく思っております。今後は、この活動の成果を工学部以外の部局の方々にも活用していただけるよう継続して取り組み、実りある産学連携の実現に向けて努力してまいります」と挨拶されました。



受賞メンバーは次の通りです。<敬称略>

- ・峯崎裕(産学連携本部知的財産部知的財産統括主幹)<写真左>
- ・中嶋直子(工学系・情報理工学系等事務部財務課外部資金チーム係長)<写真右>



コラム 知的財産用語の基礎知識

第3回 発明者とは?

「発明者」には、発明をした人になります。数人が共同して発明をした場合は、全員が発明者となるのが原則といえます。しかし、発明に協力した人であっても、発明者とならない人がいます。

それは、特許法では、発明は技術的思想の創作と考えているので、思想の創作自体に関係した人だけが発明者となるからです。

例えば、つぎの(1)及び(2)のような人は、共に共同発明者となります。

(1)今までに知られていない技術的課題又はその課題解決の方向付け(着想)を提供した人(着想の提供者)。

(2)その着想を具体化した人。

ただし、着想がすでに公知となっている場合は、その着想を提供した人とその着想を具体化した人との間に協力関係はないので、着想を具体化した人だけが発明者となります。

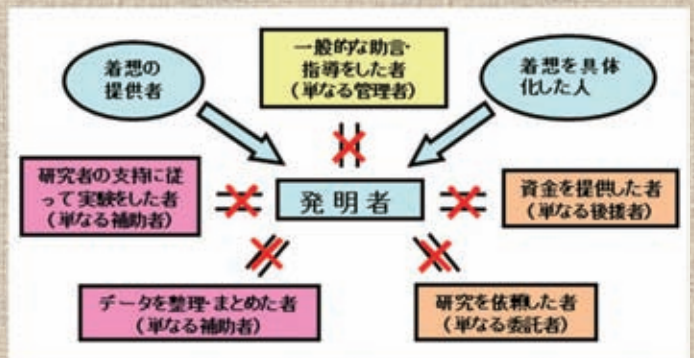
これに対し、つぎの①～③のような人は、発明者となりません。

①部下の研究者に対して、具体的な課題や方向付け(着想)を示さないで、単に通常のテーマを与えただけや一般的な助言・指導をしたにすぎない単なる管理者。

②研究者の指示に従って、単にデータをまとめたり、実験をおこなったりした単なる補助者。

③研究を依頼したり、発明者に資金を提供したり、設備利用の便宜を与えたりすることにより、発明の完成を援助した単なる後援者・委託者。

「知的財産」という言葉はよく聞けれど、人に説明できない、という方も多いのではないのでしょうか?ここでは、知的財産用語の基礎的な用語について解説します。(執筆:知的財産部)



特許出願において、真の発明者が願書に記載されていない場合は、特許が無効等となることがあります。また、真の発明者でない人が願書に記載されている場合は、真の発明者の補償額が少なくなることがあり、国によっては特許が無効等となることもありますので、発明者の特定には注意が必要です。

なお、「発明者」の記載は発明者の特定とその名誉のためであり、「出願人」の記載は特許権を要求する人を特定するためのもので、両者は異なります。

このページでは、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースをお届けします。

連続セミナー開始

国際的視点で検証する 日本のエネルギー政策

多国による政府間での議論において、政策のゴールや評価の座標軸を合意することは通常ほとんど不可能である。しかし、IEA 加盟国間では共有されたエネルギー政策の基本的目標がある。「エネルギー安全保障の確保」(Energy security)、「地球環境問題への貢献」(Environment)、「経済性・効率性の確保」(Economic Efficiency) の、3つのEである。



芳川恒志 特任教授

政策の基本的目標がある。「エネルギー安全保障の確保」(Energy security)、「地球環境問題への貢献」(Environment)、「経済性・効率性の確保」(Economic Efficiency) の、3つのEである。

3つのEをできる限り最大化することを目指すにせよ、時としてトレード・オフの関係ともなるこれらの指標のうち、どこに重点を置くのかについては、国により時代により異なっている。過去5年はおそらく石油ショック以降、エネルギー政策に対する関心が世界的にも最も高まった時期であったと思われるが、IEA 事務局から見ると、加盟国の政策的関心の重心は、2005-06年頃、2つ目のEである地球環境問題からスタートし、2010年半ばあたりから再びエネルギー安全保障に回帰しているようにも見える。さらにその中身も石油を中心とした化石燃

料から電力という2次エネルギーを含めた総合的な安全保障へと変わってきている。

問題は、ほかの2つのEとともにこのエネルギー安全保障を如何に達成するかである。また、もともと地球温暖化問題がIEA加盟国の最重要関心事となるのと軌を一にして、中国、インド及びロシアを中心とする非加盟国に対するアウトリーチへの熱意が非常に高まり、その活動はIEAの通常業務に組み入れられつつある。いわゆる先進国をメンバーとするIEAだけではいずれのEも十分に達しない新しい状況が生まれているのだ。

言うまでもないことだが、エネルギー問題は本質的にグローバルである。中国をはじめとする新興国におけるエネルギー需要の急増、化石燃料を中心とする一次エネルギーから電力へのシフトに加え、アラブの春、対イラン制裁に端を発する中東における地政学的状況や非在来型燃料の開発がエネルギー市場や政策に与えつつある影響、国境を越えたネットワーク構築の重要性の高まりなど、今、エネルギーを囲む環境は新たな段階に入りつつあるようにも見える。

福島における原発事故を受け、世界の中の日本のエネルギー政策はどうあるべきなのか。今回、政策ビジョン研究センターでは、エネルギー政策を国際的観点で議論することの重要性を踏まえ、アジア大洋州や欧州等からのエネルギー政策研究者やエネルギー政策責任者など、世界でも一流のエネ

ルギー分野の専門家を講師として招聘して、連続セミナーを開催することにした。今年設定したテーマは、以下の2点である。

- 1、日本のエネルギー政策、特に日本のエネルギー安全保障や、世界のエネルギー安全保障に対する日本の貢献の在り方
- 2、世界の中のアジア、アジアの日本、アジアにおけるエネルギー協力の在り方

講師と本学の専門家を中心としたパネリストとが討議し、情報交換を行うと共に、世界のエネルギー分野の研究者・実務家と学内外の研究者がグローバルなネットワークをつくる機会となれば幸いである。

Energy Policy Roundtable 2012 vol.1

新しい時代のエネルギー政策構築に向けて

日時：2012年2月21日(火)
場所：伊藤謝恩ホール
主催：政策ビジョン研究センター
共催：公共政策大学院

プログラム

- 開会挨拶
城山 英明 政策ビジョン研究センター長
講演「世界エネルギー展望とアジアの役割」
Dr. Fatih Birol
国際エネルギー機関 (IEA) 首席エコノミスト
World Energy Outlook(WEO) 責任者
- パネリスト
田中 伸男 前 IEA 事務局長、
現エネルギー経済研究所 特別顧問
森田 朗 大学院 法学政治学研究科 教授
中谷 和弘 大学院 法学政治学研究科 教授
佐藤 光三 大学院 工学系研究科 教授
- 司会
芳川恒志 政策ビジョン研究センター特任教授

森田 朗 教授 最終講義

現代国家の課題と 行政学の使命

3月末で退職するにあたり、18年間東京大学で行政学を研究してきて感じているのは、学問的な経験を理論化したものが社会で常に権威を持って受け入れられるとは限らないということである。特に大震災後、研究者に対する信頼は揺らいできていけると言えるだろう。研究者として学問を通じた共通の考え方を発信し、信頼を回復しなければならない。

学問としての行政学がどうあるべきか。今までの行政学は内向きだったのではないか。もう少し国際化、学際化、實際化を進め、外の世界

との交流を深めていくべきであろう。行政学者が実務の世界に関わりを持つことには批判もある。政治からの中立を保つべきだという声も大きい。しかし、行政学は、現実の行政を対象としている以上、実務の世界を知らなくては、優れた研究成果を生み出すことはできないのではないかと考えている。

客観的に見て、日本の行政の仕組みは世界でも優れていると思う。震災対応も当初は中国をはじめ多くの国から称賛された。しかし、そうした仕組みを持っているにもかかわらず、なぜこれが優れているのか、どういう仕組みで動いているのかを理論化して外に発信することができていない。各国の個別の制度の説明を超えた、世界で共有できる理論を作らなければならない。



「東京大学でしてきたことの中間報告をしたい」(森田 朗 教授)

その理論の発信方法についてもトレーニングとシステム化が必要である。社会を支える行政の仕組みを維持していくためには、現代の複雑で一般の人たちの目から隠れた部分の行政の姿を正しく理解し、政治やマスメディアの世界に発信していく工夫が必要である。

http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/act_morita_120125.html
全文は当センターウェブサイトをご覧ください。

<http://pari.u-tokyo.ac.jp>

Asian Diversity No.16 by ASNET

2011年度 冬学期総合科目の紹介 「アジア研究のフィールドワーク」

2011年度冬学期に「アジア研究のフィールドワーク」という科目を開講しました。

この科目は、フィールドワークのスキルを身に付けたい学生、ローカルな視点からアジアを学びたい学生、最新の情報技術を使った現地調査の方法を習得したい学生を対象に、その理論と方法を学ぶ科目です。

この授業では、まず文化人類学や生態人類学のフィールドワークに着目し、その長所や短所、先人たちの成果、最近のトピックを講義しました。

その後、オーストラリア・アボリジニ研究で有名な窪田幸子先生(神戸大学)をお呼びし、文化人類学にとってのフィールドワーク、そして長期にわたる参与観察に基づいたアボリジニ社会の変化を紹介して頂きました。

また、情報工学がご専門の石川正敏先生(東京成徳大学)をお呼びし、デジタルペンによる野外調査支援の講義と実習を行いました。野外で書いたメモをそのままPCに取り込めるシステムを学生たちと本郷キャンパスで実際に利用し、このシステムの利用可能性を議論しました。

12月には学生たちと中国海南島に実習に行きました。担当教員(卯田)が10年前に調査をしていた少数民族の村を訪れました。村の佇まいはあまり変化しておらず、村のおばあちゃんたちも覚えていてくれました。10年ぶりに再会した王さんとは、自家製の白酒で乾杯。村の人たちは、村落の変化を学生たちに分かりやすく説明してくれました。学生たちがこの村の10年間の変化をフィールドで目で耳で理解できた瞬間でした。



実習に参加した学生たちと。



10年前に撮った写真を渡し、再会を喜ぶ。

文:卯田宗平

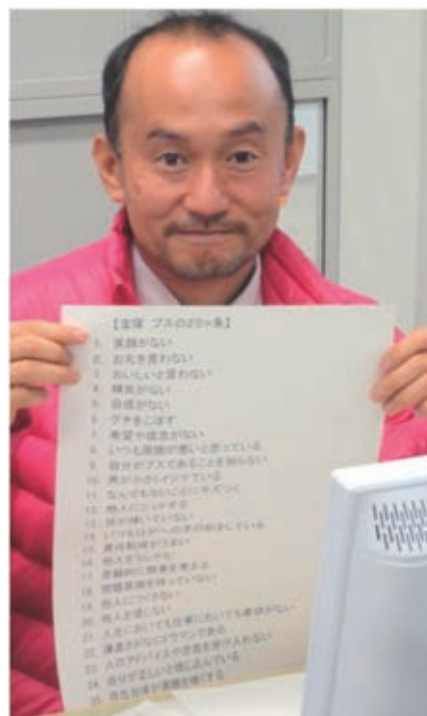
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET機構)は、アジアのことを広く、深く知りたい学生の皆さんに研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムも実施しています。詳しくは下記のURL:

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

ASNET機構

検索

柏でもサッカー小僧しています



職場にて宝塚のブスの25ヶ条を心がけ

薬学部の萩原兄貴から紹介されました、やさしくて親切な、イケメンお笑い芸人! ?の古瀬です。柏地区共通事務センター人事係では物性研究所、宇宙線新領域創成科学研究科、数物連携宇宙研究機構、空間・人工物研究センター、サステナビリティ学連携研究機構、柏地区事務部の人事関係業務を優秀なスタッフと共に行っています。今の時期は年度末の手続きに追われていますが、お昼休みのサッカーで

気分転換して日々頑張っています。サッカーではゴールを決めるよりも笑いを取るほうが多く、ヘディングを失敗すると「すべった」と突っ込まれたりしていますが自分の中ではおいしいと思っています。楽しくサッカーをし午後の仕事の活力にしています。教職員の協力のもと、年度末を乗り越えられるよう頑張っています。



今日は少ないですが、サッカー小僧達(月曜日のみ柏IIにて)

得意ワザ: 体重のリバウンド

自分の性格: ピエロ

次回執筆者のご指名: 小林晃さん

次回執筆者との関係: 色々な意味での師匠

次回執筆者の紹介: 一度聴いたら忘れられない声の持ち主

～救援・復興支援室より～

■救援・復興支援室の活動(1月～2月)

- 1月6日～9日・・・学習支援ボランティア(学生による被災地の中学生への学習支援)
場所:岩手県陸前高田市「学びの部屋」
⇒詳細はP10頁参照
- 1月16日・・・登録プロジェクト更新(新規1件)
- 1月31日・・・第9回救援・復興支援室会議
- 2月18日～26日・・・学習支援ボランティア
場所:岩手県陸前高田市「学びの部屋」
A班:2月18日～19日
B班:2月25日～26日
(※3月にも以下のとおり派遣予定)
C班:3月3日～4日
D班:3月17日～18日
- 2月24日・・・第10回救援・復興支援室会議

プロジェクト登録件数

84件

2012年1月16日現在

■救援・復興支援室の活動の詳細はウェブサイトをご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index_j.html

■救援・復興支援室

Email: kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
内線:21750

コミュニケーションセンターだより No.85

■今年もやります① 「春限定 御酒桜ボトル」



右 御酒桜ボトル
4200円(税込み)
左 御酒桜ミニボトル
1995円(税込み)

みなさまこんにちは！
暖かい日が増えてきましたね。
前回のコミュニケーションセンター
だよりにて少しお伝えした、季節・
数量限定「御酒桜ボトル」のご紹介
です！！

**2012年度御酒桜ボトル
3月1日より発売開始します！**

本年度も祝の文字、年号と、春を
感じる桜のポイントが入ります。前回
ご紹介した名入れを桜ボトルで作る
こともできます。

数量・期間限定の販売となります
ので、ぜひお早めにご覧下さい！！



←桜ボトルデザイン、かわいいです★

■今年もやります② 「卒業記念 名入りマグカップ」



マグカップ名入れデザイン 見本
(掲載写真は2009年度の物です)
お名前+年号・記念文字を選択でき
ます。

UTCCでは卒業シーズン限
定でマグカップの名入れ企画
も行っております。(予定:3月
初旬～)お値段も商品代
¥1,575+¥800とお手ごろ価
格なのでプレゼントにされる方
が非常に多いです。

卒業される方、入学される方
へのプレゼントにいかがでしょ
うか。スタッフ一同心よりお待
ちしております!!

■イベント出店情報★

- 3月22日(木) 学位記授与式
- 3月23日(金) 学部卒業式

今年もコミュニケーションセンターでは、「学位記授与式、卒業式」
の式典当日、銀杏並木特設テントにて出店します！！
盛り上がっていきますので、ぜひいらして下さい☆

(担当: UTCC 三浦)



東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN: 月曜～土曜 10:30～18:30

電話: 03-5841-1039

<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>



千葉演習林清澄作業所 構内の積雪

(撮影： 千葉演習林 鶴見康幸さん)

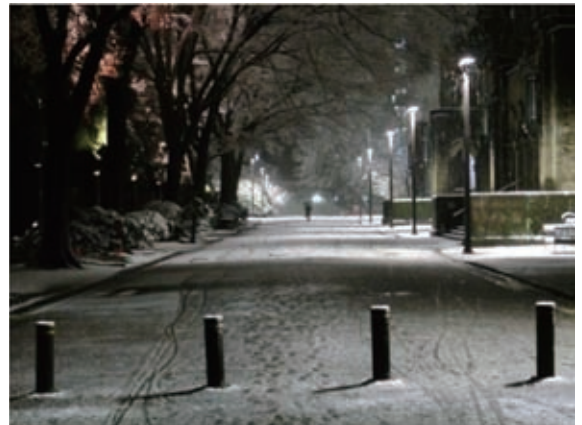
雪夜のキャンパス

1月24日(火)早朝雪景色の浅野キャンパス



中央のきのこ型の建物は受水槽

(撮影： 低温センター 雨宮はる子さん)



定点観測



思いもかけず、1/24朝、(生産研)にも積雪。
先の“銀杏”の同所では「斯波先生記念、裸の銅像」も凍てつき...。
(秋の様子は学内広報1421号 P44にて)

(撮影： 生産技術研究所 川井秀夫さん)

(撮影： 法学政治学研究科 村上裕一さん)

銅像と雪だるま

Snow Chairs



上：早出して出勤前に撮影。座り心地がよさそうです。
下：カメラマンの間で最も話題になっていました。

(撮影： 農学
生命科学図書館
渡壁典弘さん)



Snow Mermaid



吾輩は銅像である。1月23日夜、雪が降ったが全然寒くない。平気だ！猫くんは童謡にあるように寒がって、こたつで丸くなっているらしい。雪だるまは吾輩と違って、はかない命。せめて写真に留めよう。<都心に4センチ以上の積雪は6年ぶり>

(撮影： 文学部 田中 善和さん)

INFORMATION

お知らせ

お知らせ

退職教員の最終講義

学内広報では、今年度末をもって本学を退職される方々の最終講義のお知らせを掲載します。

大学院医学系研究科・医学部

菅田 勝也 教授

(健康科学・看護学専攻 看護管理学分野)

日時：3月5日(月) 15:30~17:00

会場：医学部本館 大講堂

演題：「看護管理、評価と改善」

藤田 敏郎 教授

(腎臓・内分泌内科)

日時：3月6日(火) 14:00~15:00

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「腎と高血圧とともに歩んだ30年」

村嶋 幸代 教授

(健康科学・看護学専攻 地域看護学分野)

日時：3月8日(木) 15:00~16:30

会場：医学部2号館本館大講堂

演題：「地域を看護する一へのケアとシステムづくり
—」

甲斐 一郎 教授

(公共健康医学専攻 老年社会科学分野)

日時：3月9日(金) 15:30~16:30(開場15:00)

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「医学部における社会科学」

武谷 雄二 教授

(生殖・発達・加齢医学専攻 産婦人科学講座 生殖内分泌学分野)

日時：3月19日(月) 15:30~17:00

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「エストロゲン — 誰もが知っている不可解なホルモン —」

三品 昌美 教授

(機能生物学専攻 薬理学講座 分子神経生物学部門)

日時：3月26日(月) 12:50~13:50

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「シナプス制御分子から脳と心へ」

谷口 維紹 教授

(病因・病理学専攻 免疫学講座 免疫学部門)

日時：3月26日(月) 13:50~14:50

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「免疫学の展望」

岡山 博人 教授

(分子細胞生物学専攻 生化学分子生物学講座 分子生物学部門)

日時：3月26日(月) 15:00~16:00

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「私の研究系譜

— Technology・Technology・Technology」

清水 孝雄 教授

(分子細胞生物学専攻 生化学分子生物学講座 細胞情報学部門)

日時：3月26日(月) 16:00~17:00

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「リン脂質代謝と脂質メディエーター」

大学院工学系研究科・工学部

新井 民夫 教授

(精密工学専攻 精密情報システム工学講座)

日時：3月2日(金) 15:00~16:30

会場：工学部2号館1階213号大講義室

演題：「モノの組立からサービスの組立へ」

飯塚 悦功 特任教授

(化学システム工学専攻)

日時：3月2日(金) 15:00~17:00

会場：工学部5号館51号講義室

演題：「品質、この深遠なる概念に魅せられて」

小宮山 眞 教授

(化学生命工学専攻)

日時：3月9日(金) 15:00~17:00

会場：工学部5号館51号、52号講義室

演題：「化学とバイオの接点を求めて」

前田 康二 教授

(物理工学専攻)

日時：3月9日(金) 14:00~15:30

会場：工学部6号館63号講義室

演題：「日暮れて」

土井 正男 教授

(物理工学専攻)

日時：3月9日(金) 16:00~17:30

会場：工学部6号館63号講義室

演題：「高分子物理からソフトマター物理へ」

笠木 伸英 教授

(機械工学専攻 機械物理工学講座)

日時：3月16日(金) 15:00~17:00

会場：工学部2号館1階213号大講義室

演題：「熱流体工学から社会のための科学へ」

大学院人文社会系研究科・文学部**盛山 和夫 教授**

(社会文化研究専攻 社会学講座)

日時：3月7日(水) 15:00~17:00

会場：文学部一番大教室(法文二号館)

演題：「理論社会学の可能性をめぐって」

西村 清和 教授

(基礎文化研究専攻 美学芸術学講座)

日時：3月9日(金) 15:00~16:30

会場：文学部一番大教室(法文二号館)

演題：「美学=感性学における快と感情」

大学院理学系研究科・理学部**山形 俊男 教授**

(地球惑星科学専攻 大気海洋科学講座 気候力学分野)

日時：3月1日(木) 16:00~17:30

会場：小柴ホール(理学部1号館中央棟2階)

演題：「気候力学との40年」

青木 健一 教授

(生物科学専攻 人類科学大講座)

日時：3月8日(木) 16:00~17:30

会場：理学部2号館講堂

演題：「旧人・新人の文化の相違と交替劇」

棚部 一成 教授

(地球惑星科学専攻)

日時：3月8日(木) 15:30~17:00

会場：小柴ホール(理学部1号館中央棟2階)

演題：「進化古生物学への道」

岡村 定矩 教授

(天文学専攻)

日時：3月12日(月) 16:30~17:30

会場：小柴ホール(理学部1号館中央棟2階)

演題：「銀河天文学と観測的宇宙論 - 木曾から世界へ -」

松本 良 教授

(地球惑星科学専攻 地球生命圏科学 地圏環境進化学分野)

日時：3月16日(金) 16:00~18:00

会場：小柴ホール(理学部1号館中央棟2階)

演題：「炭酸塩から資源と地球環境を読み解く」

濱口 宏夫 教授

(化学専攻 物理化学講座)

日時：3月16日(金) 14:00~16:00

場所：化学講堂(化学本館5階)

演題：「新しい化学の眼を開く」

神谷 律 教授

(生物科学専攻 動物科学講座)

日時：3月17日(土) 16:00~18:00

場所：理学部2号館講堂

演題：「小さな生き物の動きに惹かれて」

大学院農学生命科学研究科・農学部**宮崎 毅 教授**

(生物・環境工学専攻 環境地水学分野)

日時：3月2日(金) 15:00~16:30

会場：農学部7号館A棟114-115教室

演題：「土の不思議に魅せられて」

寶月 岱造 教授

(森林科学専攻 森林生命環境科学講座 森林植物学研究室)

日時：3月9日(金) 15:00~17:00

会場：農学部1号館8番教室

演題：「樹木と菌類の分子生態学のことなど」

樋口 広芳 教授

(生圏システム学専攻 生物多様性科学研究室)

日時：3月14日(水) 15:30~17:00

会場：弥生講堂一条ホール

演題：「鳥、人、自然」

若木 高善 教授

(応用生命工学専攻 酵素学研究室)
 日時：3月16日(金) 15:00~16:30
 会場：農学部2号館化学1番教室
 演題：「超好熱菌酵素の特殊性と普遍性」

大学院総合文化研究科・教養学部**湯浅 博雄 教授**

(言語情報科学専攻 フランス文学)
 日時：3月6日(火) 16:00~18:00
 会場：駒場Iキャンパスアドミニストレーション棟3階
 学際交流ホール
 演題：「バタイユにおける〈存在の連続性への開き〉と
 コミュニケーション」

黒田 玲子 教授

(広域科学専攻 生命環境科学系 生命情報学大講座)
 日時：3月8日(木) 15:00~16:30
 会場：駒場Iキャンパス18号館ホール
 演題：「自然界のキラリティー (左右非対称性) に魅せ
 られて」

玉井 哲雄 教授

(広域科学専攻 広域システム科学系)
 日時：3月12日(月) 15:30~17:00
 会場：21KOMCEEレクチャーホール
 演題：「ソフトウェアの重さ」

小宮山 進 教授

(広域科学専攻 相関基礎科学系 基礎科学科 相関自
 然部会)
 日時：3月16日(金) 14:00~15:30
 会場：駒場Iキャンパス18号館ホール
 演題：「駒場での30年」

氷上 忍 教授

(広域科学専攻 相関基礎科学系 基礎科学科 相関自
 然部会)
 日時：3月16日(金) 16:00~17:30
 会場：駒場Iキャンパス18号館ホール
 演題：「零と無限大」

林 文代 教授

(言語情報科学専攻 言語態・英米文学)
 日時：3月16日(金) 16:00~17:30
 会場：駒場Iキャンパスアドミニストレーション棟3階
 学際交流ホール
 演題：「文学的想像力とアメリカ —フォークナーを中
 心に」

船曳 建夫 教授

(超域文化科学専攻 文化人類学コース)
 日時：3月17日(土) 16:00~17:00
 会場：21KOMCEEレクチャーホール
 演題：「駒場で教える」
 * 3月30日(金)には退職記念セミナーを開催予定

山影 進 教授

(国際社会科学専攻)
 日時：3月17日(土) 15:00~17:00
 会場：駒場Iキャンパス18号館ホール
 演題：「国際関係論との邂逅、フロンティアの彷徨」

大学院教育学研究科・教育学部**佐藤 学 教授**

(学校教育高度化専攻 教職開発コース)
 日時：3月10日(土) 15:00~17:00
 会場：学士会館202号室 (千代田区神田錦町3-28)
 演題：「私の教育学研究—これまでとこれから」

大学院薬学系研究科・薬学部**杉山 雄一 教授**

(分子薬物動態学教室)
 日時：3月16日(金) 13:30~15:30
 会場：薬学部講堂 (総合研究棟2階)
 演題：「分子薬物動態学：Fork in the Road」

大学院情報理工学系研究科**土肥 健純 教授**

(知能機械情報学専攻)
 日時：3月5日(月) 15:30~17:30
 会場：工学部2号館1階213号大講義室
 演題：「医療福祉工学の現状と未来」

医科学研究所**岩倉 洋一郎 教授**

(システム疾患モデル研究センター 分子病態研究分野)
 日時：3月5日(月) 13:40~14:50
 会場：医科学研究所1号館1階講堂
 演題：「マウスを用いたヒト疾患研究」

笹川 千尋 教授

(感染・免疫部門 細菌感染分野)
 日時：3月5日(月) 14:55~16:05
 会場：医科学研究所1号館1階講堂
 演題：「赤痢菌の研究を顧みて：感染生物学の創成と未来」

森本 幾夫 教授

(先端医療研究センター 免疫病態分野)
日時：3月5日(月) 16:10~17:20
会場：医科学研究所1号館1階講堂
演題：「ヒトT細胞サブセット研究から
トランスレーショナルリサーチへ」

中村 義一 教授

(基礎医科学部門 遺伝子動態分野)
日時：3月12日(月) 13:40~14:50
会場：医科学研究所1号館1階講堂
演題：「Four decades of fun with RNA」

山本 雅 教授

(癌・細胞増殖部門 癌細胞シグナル分野)
日時：3月12日(月) 14:55~16:05
会場：医科学研究所1号館1階講堂
演題：「私の細胞シグナル研究」

東洋文化研究所

尾崎 文昭 教授

(東アジア第二研究部門)
日時：3月8日(木) 14:00~15:30
会場：東洋文化研究所3階大会議室
演題：「魯迅の小説『故事新編』についての議論を再検討する」

加納 啓良 教授

(南アジア研究部門)
日時：3月15日(木) 14:00~15:30
会場：東洋文化研究所3階大会議室
演題：「水田とプランテーションから見たインドネシア
現代史」

鈴木 董 教授

(西アジア研究部門)
日時：3月15日(木) 16:00~17:30
会場：東洋文化研究所3階大会議室
演題：「文字世界としての文化世界・アラビア文字世界
としてのイスラム世界・そしてオスマン帝国—比較
史への我が道の一到達点—」

社会科学研究所

田中 信行 教授

(比較現代法部門)
日時：3月13日(火) 15:00~17:00
会場：赤門総合研究棟5階 センター会議室
演題：「中国の法治と人治」

生産技術研究所

岡野 達雄 教授

(基礎系部門 真空物理工学分野)
日時：3月19日(月) 10:30~12:00
会場：駒場IIキャンパス 総合研究実験棟
(An棟) 2階コンベンションホール
演題：「真空から始まる科学と技術」

黒田 和男 教授

(基礎系部門 量子光学デバイス分野)
日時：3月19日(月) 13:30~15:00
会場：駒場IIキャンパス 総合研究実験棟
(An棟) 2階コンベンションホール
演題：「レーザーと光学の40年」

渡辺 正 教授

(サステイナブル材料国際研究センター 持続性材料化学分野)
日時：3月19日(月) 15:30~17:00
会場：駒場IIキャンパス 総合研究実験棟
(An棟) 2階コンベンションホール
演題：「異論な話」

宇宙線研究所

福来 正孝 教授

(宇宙基礎物理学研究部門)
日時：3月28日(水) 15:30~17:00
会場：宇宙線研究所6階大セミナー室(柏キャンパス)
演題：「素粒子研究より天体物理学へ—数多の人々との
出会いで受けた刺激」

物性研究所

柿崎 明人 教授

(軌道放射物性研究施設)
日時：3月1日(木) 13:20~14:40
会場：物性研究所6階大講義室
演題：「真空紫外放射と光電子分光：PES、ARPESそしてSARPES」

久保田 実 准教授

(極限環境物性研究部門)
日時：3月1日(木) 15:00~16:20
会場：物性研究所6階大講義室
演題：「超低温の世界から、超流動・量子渦状態の基礎
研究、高温超流動の探査へ」

八木 健彦 教授

(新物質科学研究部門)

日時：3月1日(木) 16:40~18:00

会場：物性研究所6階大講義室

演題：「100万気圧下のX線実験：64年の長い軌跡」

大気海洋研究所

西田 睦 教授

(海洋生命システム研究系 海洋生命科学部門 分子海洋生物学分野)

日時：3月23日(金) 14:30~15:30

会場：大気海洋研究所講堂

演題：「水圏生物多様性の進化を探る：分子からのアプローチ40年」

徳山 英一 教授

(海洋地球システム研究系 海洋底科学部門 海洋底地質学分野)

日時：3月23日(金) 16:00~17:00

会場：大気海洋研究所講堂

演題：「海底を測る、海底を画く、海底を解く」

先端科学技術研究センター

御厨 貴 教授

(情報文化社会)

日時：3月10日(土) 17:00~18:30

会場：駒場ⅡキャンパスAn棟2Fホール

演題：「政治へのまなざし」

*ゲスト：佐々木幹郎、鷺田清一

生物生産工学研究センター

山根 久和 教授

(環境保全工学部門)

日時：3月2日(金) 15:00~16:30

会場：農学部2号館化学1番教室

演題：「植物生理活性物質研究40年を振り返って」

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第545(2月1日)号の発行
——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、駒場保健センターで無料配布しています。バックナンバーもあります。

第545号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

木村秀雄：ラテンアメリカ料理紀行

足立信彦：駒場祭再訪

菊川芳夫：東京大学オープンキャンパス2011

Winter

石井弓：教養教育を考える——

南京大学の東大一週間体験プログラム

武田宏子：P E A K (Programs in English at Komaba)

開設国際シンポジウム

時弘哲治：2011年度ノーベル化学賞～ダニエル・シェ

ヒトマン「準結晶の発見」

〈駒場をあとに〉〈送ることば〉

船曳建夫：学恩と友情

関谷雄一：船曳建夫先生を送る～心を豊かにする知性

奥野誠：駒場の四季とスローライフ

道上達男：奥野誠先生をおくることば

松田良一：奥野さんをおくる

中澤英雄：駒場思い出すまま

田尻三千夫：駒場でカフカ～中澤英雄さんを送る

丹治愛：これまでの夢、これからの夢

鈴木英夫：Sprezzaturaの人～丹治愛さんをおくる

山影進：多くの澱と少しの上澄みと

遠藤貢：山影進先生を送る言葉～駒場国際関係論の、そして駒場の「アーキテクト」

松浦寿輝：感謝あるのみ

鈴木啓二：駒場の松浦寿輝

久保田俊一郎：駒場を去るにあたり

福井尚志：久保田俊一郎先生を送ることば

〈本の棚〉

伊藤徳也：井上健著『文豪の翻訳力——近現代日本の作家翻訳——谷崎潤一郎から村上春樹まで』冷徹な鑑識眼によって作家の翻訳を解剖する

学部報委員会：コーナーストーン／縮刷版10、創刊号からの索引本、発行のお知らせ

お知らせ

本部学生支援課

第58回東京地区国公立大学連合文化会美術展 (国公立展)のご案内

都内国公立大学10校の美術系サークルの展覧会「東京地区国公立大学連合文化会美術展都内国公立大学10校美術部合同展」(国公立展)が今年は東京農工大学が当番校となり、下記の日程にて開催されます。

この美術展は、実施までおよそ1年をかけ、学生が主体となって企画、準備を行うもので、テーマ(今年は“エネルギー”)に基づく各大学の共同作品等、多種多様な作品が出展され、学生間の交流を促進するとともに、活動意欲を刺激する場となっています。

本学からは毎年、美術サークル(本学届出学生団体)が参加しています。入場は無料となっておりますので是非、この機会に学生達の成果をご覧ください。

日時：2月29日(水)～3月4日(日)
2/29(水)～3/4(土) 10:00～18:00<入場は17:30まで>
3/5(日) 10:00～16:00<入場は15:30まで>

場所：目黒区美術館区民ギャラリー (JR山手線目黒駅より徒歩10分・東急バス田道小学校入口より徒歩3分)



入場料：無料

参加大学：

お茶の水女子大学、首都大学東京、
一橋大学・津田塾大学、電気通信大学、
東京外国語大学、東京海洋大学、
東京学芸大学、東京工業大学、
東京大学、東京農工大学
(50音順)

HP: <http://kokkoritsu2012.com/index.html>

【本件に関する問合せ先】

本部学生支援課学生生活チーム 山形・土井
TEL：03-5841-2524・2514 (内線22524・22514)

お知らせ

分子細胞生物学研究所・医科学研究所

分子細胞生物学研究所・医科学研究所 合同 技術発表会のお知らせ

分子細胞生物学研究所と医科学研究所では、以下の予定で今年度の技術発表会を開催することになりました。多くの方のご来場をお待ちしております。

日時 3月1日(木) 13:00～15:30

会場 インテリジェント・モデリング・ラボラトリー
3階大会議室

参加費 無料

問い合わせ先：tsueda@iam.u-tokyo.ac.jp

プログラム

【技術発表】

「サリドマイドの活性拡張研究」

分生研 生体有機化学 谷内出 友美

「ショウジョウバエにおける記憶形成機構解明のための研究支援」

分生研 神経生物学 前山 有子

【研修報告】

「東京大学技術職員研修報告
(コンピュータネットワーク)」

分生研 神経生物学 前山 有子

「BD FACS AriaII トレーニングコース」

分生研 分子情報 武田 泰子

【技術発表】

「科学者の行動規範～自律的実現とその課題～」 医科研
技術室 池上 徹

「ヒトゲノム解析センタースーパーコンピュータとそのシステムを使用した研究」

医科研附属ヒトゲノム解析センター

DNA情報解析 齊藤 あゆむ

お知らせ

情報基盤センター

文献管理ツール「RefWorks」[EndNote (ソフトウェア版)]
講習会など“情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ

講習会に参加して、文献の探し方・文献管理方法をマスターしましょう！

情報基盤センター図書館電子化部門では、定期的に、“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

3月は、「文献管理ツール・クローズアップデー」として、東京大学所属者が無料で利用できるウェブ版ツール「RefWorks」講習会のほか、利用者の多いソフトウェア版ツール「EndNote」についても提供元から講師を招聘し、セミナーを実施します。また文献検索初心者向けの「CiNii Articles & Web of Science：文献検索入門」など、予約不要の各種コースも実施します。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

※学外からの利用方法はどのコースでも説明します。

※文献管理ツールは、文献情報をデータベース等から取り込み、参考文献リストを自動作成できるものです。



■文献管理ツール・クローズアップデー 企画①

3/13 (火) 14:00～15:00 (実習形式)

【RefWorksを使うには?】 ※予約優先

これからRefWorksを使ってみようという方向けに、Web版の文献管理ツール「RefWorks」の使い方を説明します。

東京大学OPACや、CiNii Articles (日本語論文)、Web of Science (英語論文) など代表的なデータベースからのデータの取り込み方と、参考文献リストの自動作成方法を実習します。同日開催のEndNote (ソフトウェア版) セミナー・入門編と併せて、ぜひご参加ください。この回のみ参加も可能です。

■文献管理ツール・クローズアップデー 企画②

3/13 (火) 15:20～16:00 (講義形式)

【EndNote (ソフトウェア版) セミナー・入門編】

※予約優先

EndNoteは、有料のソフトウェア版文献管理ツールです。東京大学の方が無料で利用できるRefWorksやEndNoteWebとの違いを詳しく知りたい方向けに、提供元から講師を招聘して講義形式 (実習はありません) でセミナーを実施します。この機会に、同日開催のRefWorks講習会と併せて、ぜひご参加ください。この回のみ参加も可能です。

■文献管理ツール・クローズアップデー 企画③

3/13 (火) 16:30～17:10 (持込PCで実習形式)

【EndNote (ソフトウェア版) セミナー・上級編】

※予約優先

有料のソフトウェア版文献管理ツール・EndNoteを既にご利用の方向けに、多くのユーザが悩みがちなデータ管理や、画像情報・プレゼンテーション資料の管理にも応用できる活用方法等、一歩進んだ使い方を提供元から講師を招聘して実習します。

※当日は、EndNoteをインストール済み、かつ学内無線LAN設定済みのパソコンをご持参ください。持参が難しい方はセミナーを聴講する形でのご参加となります。



■ 3/16 (金) 15:00~16:00 (実習形式)

【医学系・生命科学系論文の探し方】 ※予約不要

ライフサイエンス分野にも強い、日本語の代表的な医学系文献データベース「医中誌Web」、世界最大級の医学・生物文献データベースである「PubMed」を使って論文の探し方を実習します。

■ 3/21 (水) 15:00~16:00 (実習形式)

【CiNii Articles & Web of Science : 文献検索入門】

※予約不要

普段はインターネットや参考書等で情報を集めているという方、そろそろ文献データベースを使って本格的に学術論文検索をはじめましょう。その第一歩として、日本語論文・英語論文の代表的データベース、「CiNii Articles」と「Web of Science」の基本的な検索方法を実習します。

■ 3/23 (金) 12:10~12:30 (実習形式)

【自宅から検索するには?】(20分ワンポイント講習)

※予約不要

自宅や帰省・出張先など、学外からデータベースや電子ジャーナルを使う方法だけ知りたい。そんな方にお奨めなのがこのコース。新年度に入る前に、学外からの利用法を確認しておきましょう。

ECCSアカウント認証によるSSL-VPN Gatewayサービスを紹介します。

●会場：本郷キャンパス総合図書館1階講習会コーナー (ECCS無線LAN設定済みのノートPC持込OK) 定員17名

●参加費：無料

●3/13 予約優先コース申込み先：

学術情報リテラシー係 (literacy * lib.u-tokyo.ac.jp) 宛に、以下のメールをお送りください。

(*は@に置き換えて送信してください。)

メールのタイトル：参加希望 (コース名)

本文：(1)参加時間・コース名 (2)氏名 (3)身分 (4)所属 (5)講師への質問 (6)ツールの利用経験

[EndNoteセミナー・上級編の受講希望者のみ][7]PC持込 (EndNoteソフトウェア版インストール済み、学内無線LAN設定済み) の可否

※3/13以外は予約不要です。直接ご来場ください。

★授業・ゼミ・学生グループなど対象にオーダーメイドで講習します！

論文の探し方の出張講習・オーダーメイド講習を随時受付中です (無料)。授業やゼミの内容に合わせて講習いたします。会場のことなど、ご相談に応じます。まずはお気軽にお問い合わせください。どのキャンパスでも、学生だけのグループでもOKです。

過去の実施例は以下のURLでご覧いただけます。

(<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>)

★Litetopiメールマガジン発信中！

本学所属の方を対象に、データベースのニュースや講習会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、下記アドレスまでメールでご連絡ください。(無料)



literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

●お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649 (内線：22649)

literacy * lib.u-tokyo.ac.jp

(*は@に置き換えて送信してください。)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

(ツイッター http://twitter.com/gacos_today)



お知らせ

保健・健康推進本部（3地区保健センター）

新入生健康診断実施に伴う休診のお知らせ

保健・健康推進本部では例年4月上旬から中旬にかけて駒場キャンパスにおいて新入生健康診断を行っています。3地区（本郷・駒場・柏）の保健センター全体で健康診断業務に対応することとなりますので、4月2日（月）、3日（火）、6日（金）を休診とさせていただきます。また、上記3日間のほかにも4月中旬ごろまで新入生健康診断に関係する業務のために、やむを得ず休診や診療時間の短縮など業務時間に変更等が生じる場合がありますので予めご了承ください。

各地区の保健センターへお越しになる際にはご面倒でも下記ホームページをご覧ください。電話等で状況を確認してからお越しになるようお願いいたします。

学生、教職員の皆様には大変ご不便をおかけしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

【問合せ先】

保健・健康推進本部

URL：<http://www.hc.u-tokyo.ac.jp/>

本郷保健センター：

電話：03-5841-2575・2574 内線：22575・22574

駒場保健センター：

電話：03-5454-6831 内線：46831

柏保健センター：

電話：04-7136-3040 内線：63040

卒業生室からのお知らせ



外国人卒業生向けに メルマガ配信中！ 情報をお寄せください！

卒業生室では外国人卒業生の方々に月1回メルマガジン(英語版)を配信しています。日本在住の外国人卒業生はもちろん、海外在住の外国人卒業生にとっては母校とつながる大切な情報源です。外国人卒業生とのネットワーク作り強化のため、皆さまの協力をお願いします。彼らに向けたメッセージ、発信したい情報等があれば、ぜひ原稿をお寄せください。

1. 配信スケジュール

英語版は毎月第3木曜日に配信中。(祝日・大学暦等により前後する場合あり)

※日本語版は毎月第2、第4木曜日配信

2. 形態

メルマガで概略を紹介し、詳細は部局のサイトにリンクします。

3. 配信する情報

海外で開催されるイベント、国際交流、英語の新設サイト情報等、国内外の外国人卒業生に有用な情報

4. 送付方法

毎月第1週に編集会議を開催しています。配信をご希望の方は月初めを目安に、下記提出先まで以下の情報をメールにて送付してください。

- ①掲載を希望される情報の概要（日本語でもOKです）
(250字～300字程度。メルマガ本文に記載します)
- ②掲載を希望される情報のURL

5. 留意事項

編集、配信スケジュールによって掲載できない場合があります。事前にお問い合わせください。

6. 問い合わせ先・提出先

卒業生課

03-5841-1216 内線21216

E-mail: tft@adm.u-tokyo.ac.jp

メルマガを見た卒業生のコメント

I think it is fabulous that you are doing this and very smart.



メルマガを送っていただきありがとうございます。ゼミ授業の延長として日本語のメルマガも読みたいです。

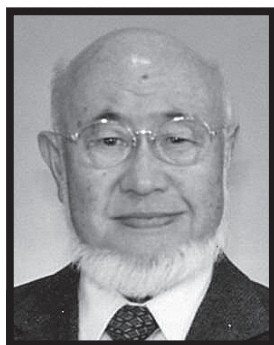
您的来信已收到，谢谢！

多賀信夫名誉教授

多賀信夫名誉教授は、平成23年10月30日にご逝去されました。87歳でした。

先生は神奈川県鎌倉にお生まれになり、湘南中学を経て北海道帝国大学予科に、そして昭和21年4月に東京帝国大学農学部水産学科に入学されました。昭和24年3月に卒業後、大学院に進まれ、29年3月修了後、同年6月に農学部の助手に採用されました。昭和37年7月には設立間もない海洋研究所の助教授に、さらに42年には教授にられました。以後、昭和59年3月に退官されるまで、海洋微生物部門の教授として多くの研究業績を挙げられ、弟子を育てられました。

先生は我が国の海洋微生物学の創始者として知られています。学生時代に海洋の微生物に興味を持ち、手探りで東京湾の微生物に関する卒業研究を始めましたが、当時の我が国には、海洋微生物についての学問的知見はほぼ皆無でした。そこで、この分野の第一人者であったアメリカのスクリプス海洋研究所のZoBell教授に手紙を送って関連する文献を依頼したところ、早速著書と文献が送られてきました。大学3年生の時でした。これがきっかけでZoBell教授とのやりとりが始まり、昭和34年にはロックフェラー財団による奨学金を受けて、スクリプス海洋研究所の同教授の研究室に滞在することになりました。1年の研鑽の後、帰国し、本格的に海洋微生物学の研究を開始し、海洋研究所の助教授、教授としてこの新たな研究分野の基礎を築かれました。今でこそ海洋微生物は海洋生態系を駆動する重要な生物群として広く知られていますが、先生の指導の下に微生物の生物量や生態、さらにその特



性に関する多くの先駆的研究成果が生まれました。これらの多くは海洋研究所に所属していた学術研究船淡水青丸、白鳳丸を使って得られたものです。

一方、先生は昭和30年代初頭に、沿岸環境の汚濁の科学的調査や水質基準、排水処理に関する一連の研究を手掛けられたことでも知られます。とりわけ、パルプ廃水が水圏の生物群集に与える影響を調べた研究では、廃水の河口域での分散過程を現場調査で明らかにし、さらにその生物毒性を様々なモデル生物を使って確認されました。それを通じて得た知見は当時の安全基準の考え方にも反映されています。こうしたアプローチはその後公害問題が顕在化した後も広く使われてきた基本的なもので、水圏の環境問題に関わる基礎的研究としてその先駆性は高く評価されるべきものです。

先生は、昭和59年に海洋研究所をご退官後、台湾に2年、タイに1年滞在され、現地の若い研究者を指導されながら、増養殖場環境の微生物学的研究を通じて国際的な貢献をされました。「東南アジア諸国にとって養殖は極めて重要な産業だが、その方式が必ずしも適切ではなく、ともすると赤潮の発生や大規模な魚病の発生などの深刻な環境問題を引き起こし、壊滅的な打撃を受けることになる。それを主に微生物学的な視点から解析し、解決していくための基礎的な技術と考え方を教えたい」というのが先生の願いでした。このように、常に現場に身を置きつつ、現地の人々を教育しながら一緒に環境問題の解決を目指していこう、とのスタンスを貫きました。先生はその学問的見識の高さのみならず、そのお人柄、日本人離れした流暢な英語と美声で多くの現地の若い研究者を魅了し、多くの弟子が育ちました。彼らは今や若い学生を教える立場に立って活躍しています。

ここに先生のお人柄とご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

(大気海洋研究所)

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
24.1.31	Bellassoued Mourad	辞 職	大学院数理科学研究科教授
（採 用）			
24.1.16	岡本 晃充	大学院工学系研究科教授	理化学研究所基幹研究所准主任研究員
24.1.16	中村 泰信	大学院工学系研究科教授	
24.2.1	生駒 大洋	大学院理学系研究科准教授	東京工業大学大学院理工学研究科助教
（昇 任）			
24.1.16	松田 良一	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科准教授
24.1.16	沖 一雄	生産技術研究所准教授	生産技術研究所講師
24.2.1	鯉淵 幸生	大学院新領域創成科学研究科准教授	大学院新領域創成科学研究科講師

※ 退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。



「学内広報」ニュース・インフォメーション記事提出要領

作成例

本部広報課

「キャンパスツアー」スタート！

本学学生がツアーガイドとなって、赤門や大講堂(安田講堂)、三四郎池、総合図書館など、本郷キャンパス内の名所旧跡を案内する「キャンパスツアー」が今年も始まった。キャンパスツアーは昨年度から実施されており、「ジュニアTA制度」に基づき応募した学生が、東京大学の歴史や学生生活のエピソードを交えながら、約2時間にわたり案内する。

今年度のスタートとなった5月14日(土)には、午前、午後合わせて43人が参加し、ツアーガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。



広報センター前で説明するガイドとそれを聞く参加者

ツアーには、高校生以上であれば誰でも無料で参加することができる。今後のツアーは、五月祭期間や年末年始、入試期間を除く授業期間の土曜日と日曜日(10:00~12:00、14:00~16:00)に行われる予定である。



正門から大講堂に続く銀杏並木

記事の冒頭に**部局名**を記載

簡潔で分かりやすい**タイトル**を記載

- ・過去の報告記事(ニュース)では「**である調**」を用いる
- ・今後のお知らせ(インフォメーション)では「**ですます調**」を用いる

日付には括弧書きで**曜日**をつける

- ・写真を掲載する場合は、25文字以内で**キャプション**(写真の説明文)をつける。写真は3枚程度まで
- ・原稿とは別に、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを別途送付する(プリントの写真は学内便で送付)

句読点は「、」「。」を用いる

時間は**24時間表記**とする

- ・記事は一行25文字の書式で作成する。
- ・文字数は800字を目安とするが、内容によって増減は可とする。
- ・人物名は**フルネーム**で表記すること。

提出上の注意

1. 提出方法

記事は、各部局の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとして送付すること。
(学内広報担当者の個人アドレスではなく、必ず下記のアドレスに送付してください。)

2. 締切日

HPで発行スケジュールを確認すること。
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html
トップページ> 広報・情報公開> 学内広報

問い合わせ先・提出先

本部広報課広報企画チーム
TEL: 03-3811-3393(内線: 82032)
E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

※原稿を受け取った後、学内広報担当者から、必ず**受領メール**をお送りしています(概ね1週間以内)。返信メールが届かない場合は、何らかのトラブルで原稿を受け取れていない可能性がありますので、その際は**お問合せ願います**。

Contents

特集

- 02 役員就任・退任の挨拶
- 03 東京大学の教育 ～「大学教育の達成度調査」からみえてくるもの

NEWS

一般ニュース

- 08 学生相談ネットワーク本部
なんでも相談コーナー柏分室開設
- 08 産学連携本部
「金属資源循環の課題と安定供給に向けて 一資源クライシスに備えて一」一第22回科学技術交流フォーラム開催一
- 10 本部環境安全課
本部防災訓練を実施
- 10 救援・復興支援室
被災地における学習支援ボランティアの活動報告
- 11 学生相談ネットワーク本部
講演会「博士課程・ポスドクのキャリアパスを拓く」を開催

部局ニュース

- 12 大学院教育学研究科・教育学部
バリアフリー教育開発研究センター主催
公開研究会「障害・クィア・シティズンシップ」開催
- 13 先端科学技術研究センター
「魔法のふでばこプロジェクト」成果報告会開催・
タブレットPCで障害児の学習を支援
- 13 大学院教育学研究科・教育学部
留学生懇談会の開催

コラム

- 15 ひょうたん島通信 第2回
- 16 決算のDOOR ～数字が語る東京大学 第17回
- 16 インタープリターズバイブル vol.55
- 17 Crossroad 産学連携本部だより vol.75
- 18 Policy + alt vol.29
- 19 ASIAN DIVERSITY No.16
- 19 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第72回
- 20 コミュニケーションセンターだより No.85
- 20 救援・復興支援室より No.9

INFORMATION

お知らせ

- 23 退職教員の最終講義
- 27 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第545（2月1日）号の発行
一教員による、学生のための学内新聞一
- 28 本部学生支援課
第58回東京地区国公立大学連合文化会美術展（国立展）のご案内
- 28 分子細胞生物学研究所・医科学研究所
分子細胞生物学研究所・医科学研究所 合同技術発表会のお知らせ

◆表紙写真◆
伊藤国際学術研究センター

- 29 情報基盤センター
文献管理ツール「RefWorks」「EndNote（ソフトウェア版）」講習会など“情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ
- 31 保健・健康推進本部（3地区保健センター）
新入生健康診断実施に伴う休診のお知らせ

訃報

- 32 多賀信夫名誉教授

事務連絡

- 33 人事異動（教員）

淡青評論

- 36 JPドメインで寝ないで欲しい

編集後記

編集後記を利用してお詫びと修正をさせていただきます。先月号のオープンキャンパス特集の中で、4ページ目の地震研スタッフのパーカーのモチーフを「ウナギ」としましたが、正しくは、もちろん「ナマズ」です!! 「ウナギ」であるはずがありません。関係者のみなさま、本当に申し訳ありませんでした。
さて今回の表紙は、オープン間近の伊藤国際学術研究センターです。赤門横という好立地なので、既に目にされている方も多いと思います。夕方に撮影しましたが、暗くなりはじめた青い空を背景にライトのついた建物がとても格好良かったです。ホールやレストランもとても素敵とのことなので、早く利用してみたいです。（ふ）



七徳堂鬼瓦

JPドメインで寝ないで欲しい

正月にJPRS（日本レジストリサービス）のCMを見た。たぶん新卒採用も視野に入れた企業イメージアップCMだと思うが、その内容がとても酷い。真面目そうな青年が愚直にJPドメインの説明をし始めると、周りの人々がたちどころに眠り始め、挙句の果てには、3年間不眠症に悩んでいた紳士も眠りに着く、という落ちである。授業で学生に寝られる身には沁みるCMだが、これほどまでに一般の人々にとって、ネットワークや情報システムの仕組みは訳がわからないものなのだろうか。

いわゆるICT（Information Communication Technology）分野における日本の旗色は余りよくないが、特にICT利活用に関して日本のランキングは低く、平成23年度版の情報通信白書においても、第1位は韓国、日本は第18位に留まっている。また、最近のニュースに、韓国の憲法裁判所がネットワーク上の選挙運動禁止は違憲であるとの決定を下したことが報じられている。

日本のICT利活用が他国に比べて進まない理由は極めて複合的であり、とても800字では議論できないが、見逃せないのが、日本人全体の情報リテラシーの低さである。この理由も複合的であるが、情報分野に携わるものとしては、謙虚に自分たちの努力の足りなさを自覚すべきだと思っている。これまで、自分たちの技術・学術の発展や自分たちの後継者の教育には努力を惜しまなかったが、社会全体の情報リテラシーの向上にどれほどの関心を払ってきただろうか。初等中等教育、高等教育、生涯教育と、日本人の情報リテラシーの向上に資する場面はいくらでもある。特に、大学進学率の高さを考えると、情報を専門としない大学生に対する情報教育を充実させることが極めて重要である。情報教育は語学教育にも似ていて、前期課程に限られるべきではない。情報分野に携わるものとしては、後期課程も含めた全学的な情報教育を充実させるために何ができるのか、考えるべき時が来ていると思う。

萩谷 昌己（大学院情報理工学系研究科）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

〔訂正〕

学内広報において、一部誤りがありましたので訂正いたします。

No.1421（2012.1.25）

33ページ：左下

伊藤国際学術研究センター内レストランの開業時期

（誤） 2月17日（金）

（正） 3月上旬（予定）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1422 2012年2月23日

東京大学広報室

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報課

TEL：03-3811-3393

e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

<http://www.u-tokyo.ac.jp/>